

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	コリツダ'イ'クホジ'ン オイタ'イ'ク 国立大学法人 大分大学							
フリガナ大学の名称	オイタ'イ'ク 大分大学 (Oita University)							
大学本部の位置	大分県大分市大字旦野原700番地							
大学の目的	大分大学は、人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	先進医療科学科は、医学・医療の基盤を支え、自然科学と社会科学の融合による「総合知」を創造し、イノベーション創出に発展させることのできる融合人材を育成することを目的とする。加えて、起業家マインド、国際感覚、イノベーション創出のための素養を涵養するとともに、本学科に関連する学問分野を連携させた教育・研究領域（進化した医工連携、深化した医学生命科学連携）を構築し、医学・医療の発展に寄与する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	医学部 [Faculty of Medicine]	年	人	年次人	人		年月 第年次	
	先進医療科学科 [Department of Advanced Medical Sciences]	4	35	-	140	学士 (医療科学) 【Bachelor of Medical Sciences】	令和5年4月 第1年次	大分県由布市挾間町 医大ヶ丘1丁目1番地  大分県大分市大字 旦野原700番地
計		35	-	140				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>教育学部 学校教育教員養成課程〔定員増〕 (15) (令和5年4月)</p> <p>経済学部 経済学科〔定員減〕 (△10) (令和5年4月) 経営システム学科〔定員減〕 (△5) (令和5年4月) 地域システム学科〔定員減〕 (△5) (令和5年4月)</p> <p>理工学部 理工学科 (355) (令和4年4月事前相談) 3年次編入学定員 (10) 創生工学科（廃止） (△235) 3年次編入学定員 (△7) ※令和5年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止) 共創理工学科（廃止） (△150) 3年次編入学定員 (△3) ※令和5年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	医学部 先進医療科学科	110科目	13科目	10科目	133科目	125単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等		令和4年4月 事前相談
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新 設 分	医学部 先進医療科学科		7人 (7)	3人 (3)	5人 (5)	1人 (1)	16人 (16)	0人 (0)	106人 (106)	
	理工学部 理工学科		28 (28)	39 (39)	9 (9)	15 (15)	91 (91)	1 (1)	116 (116)	
	計		35 (35)	42 (42)	14 (14)	16 (16)	107 (107)	1 (1)	- (-)	
既 設	教育学部 学校教育教員養成課程		27 (27)	20 (20)	6 (6)	0 (0)	53 (53)	0 (0)	43 (43)	
	経済学部 経済学科		6 (6)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	17 (17)	
組 織	経営システム学科		5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	1 (1)	17 (17)	
	地域システム学科		5 (5)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	17 (17)	
の 概 要	社会イノベーション学科		5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	17 (17)	
	医学部 医学科		44 (44)	30 (30)	6 (6)	78 (78)	158 (158)	0 (0)	116 (116)	
設 分	看護学科		8 (8)	3 (3)	3 (3)	6 (6)	20 (20)	2 (2)	12 (12)	
	福祉健康科学部 福祉健康科学科		9 (9)	13 (13)	8 (8)	2 (2)	32 (32)	0 (0)	17 (17)	
分	医学部附属病院		3 (3)	4 (4)	25 (25)	118 (118)	150 (150)	0 (0)	0 (0)	
	グローバル感染症研究センター		2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	
要	教育マネジメント機構		6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
	研究マネジメント機構		2 (2)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
概	学術情報拠点		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
	地域連携プラットフォーム推進機構		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
要	減災・復興デザイン教育研究センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
	保健管理センター		1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
分	IRセンター		0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
	計		125 (125)	103 (103)	56 (56)	206 (206)	490 (490)	3 (3)	- (-)	
合 計			160 (160)	145 (145)	70 (70)	222 (222)	597 (597)	4 (4)	- (-)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		333人 (333)		217人 (217)		550人 (550)			
	技 術 職 員		1,014 (1,014)		305 (305)		1,319 (1,319)			
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)			
	そ の 他 の 職 員		26 (26)		78 (78)		104 (104)			
計			1,375 (1,375)		600 (600)		1,975 (1,975)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	152,144 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		152,144 m <sup>2</sup>			
	運 動 場 用 地	72,956 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		72,956 m <sup>2</sup>			
	小 計	225,100 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		225,100 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	229,519 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		229,519 m <sup>2</sup>			
合 計		454,619 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		454,619 m <sup>2</sup>			

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		113,384 m <sup>2</sup> (113,384 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	113,384 m <sup>2</sup> (113,384 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	61 室	153 室	364 室	19 室 (補助職員 0人)	2 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		医学部 先進医療科学科			15 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数	
	医学部 先進医療科学科	792,085 [202,774] (783,297 [200,524])	11,310 [4,119] (11,310 [4,119])	21,201 [21,201] (21,201 [21,201])	3,767 (3,551)	2,741 (2,741)	56 (56)		
	計	792,085 [202,774] (783,297 [200,524])	11,310 [4,119] (11,310 [4,119])	21,201 [21,201] (21,201 [21,201])	3,767 (3,551)	2,741 (2,741)	56 (56)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		7,631 m <sup>2</sup>		940	605,583				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		4,811 m <sup>2</sup>		弓道場、テニスコート、プール、陸上競技場等					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-	
		共同研究費等	-	-	-	-	-	-	
		図書購入費	-	-	-	-	-	-	
	設備購入費	-	-	-	-	-	-		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			-						
大 学 の 名 称		大分大学							
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
【 学 部 】		年	人	年次 人	人		倍		
教育学部		4	135	-	540	-	1.03	平成28年度	大分県大分市大字 且野原700番地
学校教育教員養成課程		4	135	-	540	学士 (教育)	1.03	平成28年度	
経済学部		4	290	3年次 10	1,180	-	1.02	昭和44年度	大分県大分市大字 且野原700番地
経済学科		4	90	-	360	学士 (経済学)	-	平成6年度	
経営システム学科		4	80	-	320	学士 (経済学)	-	平成6年度	
地域システム学科		4	80	-	320	学士 (経済学)	-	平成6年度	
社会イノベーション学科		4	40	-	160	学士 (経済学)	-	平成29年度	
各学科共通		-	-	3年次 10	20	-	-	-	
医学部		-	160	2年次 10 3年次 6	902	-	-	昭和51年度	大分県由布市挾間 町医大ケ丘1丁目1 番地
医学科		6	100	2年次 10	650	学士 (医学)	1.00	昭和51年度	
看護学科		4	60	3年次 6	252	学士 (看護学)	1.02	平成6年度	

既設大学等の状況	理工学部	4	385	3年次 10	1,560	-	1.03	平成29年度	大分県大分市大字 且野原700番地		
	創生工学科	4	235	3年次 7	954	学士 (工学)	1.04	平成29年度			
	共創理工学科	4	150	3年次 3	606	学士 (理工学)	1.03	平成29年度			
	工学部	4	-	-	-	-	-	昭和47年度			
	機械・エネルギーシステム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9年度			平成29年より学 生募集停止
	電気電子工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成3年度			
	知能情報システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成3年度			
	応用化学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成4年度			
	福祉環境工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9年度			
	各学科共通	-	-	3年次 -	-	-	-	-			
	福祉健康科学部	4	100	-	400	-	1.04	平成28年度			大分県大分市大字 且野原700番地
	福祉健康科学科	4	100	-	400	学士 (福祉健康科学)	1.04	平成28年度			
	【 大 学 院 】										
	大学院教育学研究科	2	20	-	40	-	0.82	平成4年度	大分県大分市大字 且野原700番地		
	(修士課程)	-	-	-	-	-	-	-			
	学校教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成4年度			
	(専門職学位課程)	-	20	-	40	-	0.82	-			
	教職開発専攻	2	20	-	40	教職修士 (専門職)	0.82	令和2年度			
	大学院経済学研究科	-	23	-	49	-	-	平成11年度	大分県大分市大字 且野原700番地		
	(博士前期課程)	-	20	-	40	-	0.52	-			
	経済社会政策専攻	2	8	-	16	修士 (経済学)	0.56	平成11年度			
	地域経営政策専攻	2	12	-	24	修士 (経済学) 修士 (経営学)	0.49	平成11年度			
	(博士後期課程)	-	3	-	9	-	0.55	-			
	地域経営専攻	3	3	-	9	博士 (経済学)	0.55	平成19年度			
	大学院医学系研究科	-	40	-	140	-	-	平成10年度	大分県由布市挾間 町医大ヶ丘1丁目1		
	(修士課程)	-	10	-	20	-	-	-			
	医科学専攻	2	-	-	-	修士 (医科学)	-	平成15年度			
	看護学専攻	2	10	-	20	修士 (看護学)	0.55	平成10年度			
	(博士課程)	-	30	-	120	-	0.71	-			
医学専攻	4	30	-	120	博士 (医学)	0.71	平成20年度				

既設大学等の状況	大学院工学研究科	-	143	-	294	-	-	平成7年度	大分県大分市大字 且野原700番地	平成28年より学 生募集停止		
	(博士前期課程)	-	135	-	270	-	1.07	-				
	工学専攻	2	135	-	270	修士 (工学)	1.07	平成28年度				
	(博士後期課程)	-	8	-	24	-	0.37	-				
	工学専攻	3	8	-	24	博士 (工学)	0.37	平成28年度				
	環境工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)	-	平成7年度				
	大学院福祉社会科学研究科	2	-	-	-	-	-	平成14年度			大分県大分市大字 且野原700番地	令和2年より学 生募集停止
	(修士課程)	-	-	-	-	-	-	-				
	福祉社会科学専攻	2	-	-	-	修士 (福祉社会科学)	-	平成14年度				
	大学院福祉健康科学研究科	2	20	-	40	-	-	1.17			大分県大分市大字 且野原700番地	
(修士課程)	-	20	-	40	-	-	1.17					
福祉健康科学専攻	2	20	-	40	修士 (健康医科学) 修士 (福祉社会科学) 修士 (心理学)	1.17	令和2年度					
附属施設の概要	(附属学校) 名称：教育学部附属幼稚園 目的：義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、次に掲げる任務を果たす。 (1) 教育学部における幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。 (2) 保育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の幼稚園との保育研究の協力及び保育研究の成果の交流を行うこと。 (3) 地域の先進的・先導的なモデル校として、地域の教育委員会等と連携して研究実践し、情報を発信する。 所在地：大分市王子新町1-1（王子キャンパス） 設置年：昭和6年3月（昭和24年5月に大分大学に設置） 規模等：土地9,171㎡、建物959㎡											
	名称：教育学部附属小学校 目的：心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次に掲げる任務を果たす。 (1) 教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。 (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。 (3) 地域の先進的・先導的なモデル校として、地域の教育委員会等と連携して実践し、情報を発信する。 所在地：大分市王子新町1-1（王子キャンパス） 設置年：明治16年4月（昭和24年5月に大分大学に設置） 規模等：土地23,437㎡、建物6,867㎡											
	名称：教育学部附属中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果たす。 (1) 教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。 (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。 (3) 地域の先進的・先導的なモデル校として、地域の教育委員会等と連携して実践し、情報を発信する。 所在地：大分市王子新町1-1（王子キャンパス） 設置年：昭和24年4月（昭和24年5月に大分大学に設置） 規模等：土地27,338㎡、建物6,950㎡											

附属施設の概要	<p>名称：教育学部附属特別支援学校          目的：知的障害者に対して、小学校・中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、併せて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、次に掲げる任務を果たす。          (1) 教育学部における児童・生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たる。          (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。          (3) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、教育上特別の支援を必要とする児童、生徒又は幼児の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努めること。          (4) 地域の先進的・先導的なモデル校として、地域の教育委員会等と連携して実践し、情報を発信する。          所在地：大分市王子新町1-1（王子キャンパス）          設置年：昭和48年4月（平成19年4月に附属養護学校を改称）          規模等：土地13,984㎡、建物3,963㎡</p>
	<p>(附属病院)          名称：医学部附属病院          目的：診療を通して医学の教育及び研究に資する。          所在地：大分県由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地（挾間キャンパス）          設置年：昭和56年4月          規模等：土地103,767㎡、建物70,776㎡</p>
	<p>(全国共同利用研究施設)          名称：グローバル感染症研究センター          目的：全国共同利用の研究施設として本学における感染症に関する研究力強化を戦略的に推進し、本学ひいては我が国の感染症研究基盤の強化・充実に資する。          所在地：大分県由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地（挾間キャンパス）          設置年：令和3年10月          規模等：土地 - ㎡、建物58㎡</p>
	<p>名称：教育マネジメント機構          目的：本学が提供する教育プログラムを継続的かつ俯瞰的にモニタリングし、教育目標を達成するための改善及び向上を促す包括的・体系的取組を主導する。          所在地：大分県大分市大字且野原700番地（且野原キャンパス）          設置年：令和3年3月（アドミッションセンターと高等教育開発センターを統合）          規模等：土地 - ㎡、建物203㎡</p>
	<p>名称：研究マネジメント機構          目的：本学の研究力強化に向けた学術研究の高度化及び活性化並びにイノベーションの推進を図るとともに、研究成果を社会に還元するための総合的検討を行い、その効果的な具現化に向けて統括する。          所在地：大分県大分市大字且野原700番地（且野原キャンパス）          大分県由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地（挾間キャンパス）          設置年：令和3年10月（全学研究推進機構と産学官連携推進機構を統合）          規模等：土地 - ㎡、建物7,280㎡</p>
	<p>名称：学術情報拠点          目的：全学的な学術情報基盤の基幹組織として学術情報の整備・充実とその高度化に努め、図書、学術雑誌その他必要な資料と情報システム及び情報ネットワークを本学の教職員及び学生の利用に供することにより教育・研究の進展を図るとともに、地域社会への学術情報の提供と公開及び情報化支援などを通じて社会との連携の推進に資する。          所在地：大分県大分市大字且野原700番地（且野原キャンパス）          設置年：平成20年4月（附属図書館と総合情報処理センターを統合）          規模等：土地 - ㎡、建物785㎡</p>
	<p>(学内共同教育研究施設等)          名称：地域連携プラットフォーム推進機構          目的：地（知）の拠点の整備事業を総括し、地域を志向した教育、研究及び社会貢献を行うとともに、地域連携プラットフォームの推進に向けた取組を行う。          所在地：大分県大分市大字且野原700番地（且野原キャンパス）          設置年：令和2年6月（COC+推進機構を改組）          規模等：土地 - ㎡、62㎡</p>
	<p>名称：減災・復興デザイン教育研究センター          目的：防災、減災及び復興デザインに関する調査、教育及び研究の成果を地域社会に還元し、もって地域の安全・安心社会づくりに寄与する。          所在地：大分県大分市大字且野原700番地（且野原キャンパス）          設置年：平成30年1月          規模等：土地 - ㎡、建物36㎡</p>

附属施設の概要	<p>名称：保健管理センター          目的：大分大学の保健に関する専門的業務と研究を一体的に行い、学生及び教職員の心身の健康保持増進を図る。          所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）          大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地（挾間キャンパス）          設置年：昭和49年4月          規模等：土地 - m<sup>2</sup>、建物804m<sup>2</sup></p>	
	<p>名称：IRセンター          目的：大学に係る様々なデータ及び情報の収集、管理、分析等を行うことにより、本学の戦略的運営の意思決定、推進及び改善を支援する。          所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）          設置年：令和2年1月          規模等：土地 - m<sup>2</sup>、建物26m<sup>2</sup></p>	

## 国立大学法人大分大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>大分大学</b>					<b>大分大学</b>				
教育学部 学校教育教員養成課程	135	-	540		教育学部 学校教育教員養成課程	<u>150</u>	-	<u>600</u>	
経済学部					経済学部				
経済学科	90	-	360		経済学科	<u>80</u>	-	<u>320</u>	
経営システム学科	80	-	320		経営システム学科	<u>75</u>	-	<u>300</u>	
地域システム学科	80	-	320		地域システム学科	<u>75</u>	-	<u>300</u>	
社会イノベーション学科	40	-	160		社会イノベーション学科	40	-	160	
3年次					3年次				
各学科共通	-	10	20		各学科共通	-	10	20	
医学部					医学部				
医学科(6年制)	100	10	650		医学科(6年制)	<u>90</u>	10	<u>590</u>	※令和4年度まで臨時定員増 (令和5年度以降は入学定員90名)
3年次					3年次				
看護学科	60	6	252		看護学科	60	6	252	
3年次					3年次				
<u>先進医療科学科</u>	<u>35</u>	-	<u>140</u>		<u>先進医療科学科</u>	<u>35</u>	-	<u>140</u>	学科の設置(意見伺い)
理工学部					理工学部				
3年次					3年次				
創生工学科	235	7	954		創生工学科	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止
共創理工学科	150	3	606		共創理工学科	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止
3年次					3年次				
<u>理工工学科</u>	<u>355</u>	10	<u>1,440</u>		<u>理工工学科</u>	<u>355</u>	10	<u>1,440</u>	学科の設置(事前相談)
福祉健康科学部					福祉健康科学部				
福祉健康科学科	100	-	400		福祉健康科学科	100	-	400	
2年次					2年次				
計	1,070	10	4,582		計	<u>1,060</u>	10	<u>4,522</u>	
3年次					3年次				
計			26		計			26	
<b>大分大学大学院</b>					<b>大分大学大学院</b>				
教育学研究科					教育学研究科				
教職開発専攻(P)	20	-	40		教職開発専攻(P)	20	-	40	
経済学研究科					経済学研究科				
経済社会政策専攻(M)	8	-	16		経済社会政策専攻(M)	8	-	16	
地域経営政策専攻(M)	12	-	24		地域経営政策専攻(M)	12	-	24	
地域経営専攻(D)	3	-	9		地域経営専攻(D)	3	-	9	
医学系研究科					医学系研究科				
看護学専攻(M)	10	-	20		看護学専攻(M)	10	-	20	
医学専攻(D)	30	-	120		医学専攻(D)	30	-	120	
工学研究科					工学研究科				
工学専攻(M)	135	-	270		工学専攻(M)	135	-	270	
工学専攻(D)	8	-	24		工学専攻(D)	8	-	24	
福祉健康科学研究科					福祉健康科学研究科				
福祉健康科学専攻(M)	20	-	40		福祉健康科学専攻(M)	20	-	40	
計	246	0	563		計	246	0	563	



教育課程等の概要														
（医学部先進医療科学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎分野科目	医療科学入門	1前	2			○			7	3	5	1		オムニバス
	早期体験実習	1前	1					○	1					兼1
	健康科学概論	1前	1			○			1					兼1
	医療倫理学Ⅰ	1前	1			○								兼1
	医療倫理学Ⅱ	1後	1			○								兼1
	心理行動科学	1前	1			○								兼1
	データサイエンス入門	1前	1			○								兼2
	健康運動科学Ⅰ	1前	1				○							兼1
	健康運動科学Ⅱ	1後	1				○							兼1
	コミュニケーション学	1後	1				○							兼1
	実験系研究者のための生物学	1前		2			○				1			
	生命科学研究概論	1後		2			○				2			
	数学Ⅰ	1前		1			○							
	数学Ⅱ	1後		1			○							
	物理Ⅰ	1前		1			○							
	物理Ⅱ	1後		1			○							
	化学Ⅰ	1前		1			○							
	化学Ⅱ	1後		1			○							
	生物Ⅰ	1前		1			○							
	生物Ⅱ	1後		1			○							
	日本の古典文学を学ぶ	1前		1			○							
	ドイツ文学	1前		1			○							
	音楽	1後		1			○							
	日本近代文学	1後		1			○							
	自己理解のための心理臨床学入門	1前		1			○							
	大分大学入門	1前		1			○							
	栄養学	2前		1			○							
小計（27科目）	—		11	19	0	—			7	3	5	1	0	兼17
融合人材育成科目群	国際力強化科目群	1前	1			○								兼1
	医療英語Ⅰ	1後	1			○								兼1
	医療英語Ⅱ	2前		1		○								兼1
	医療英会話Ⅰ	2後		1		○								兼1
	医療英会話Ⅱ	1後		2		○								兼2
	グローバルコミュニケーションⅠ	3通		2		○								兼2
	グローバルコミュニケーションⅡ	1前		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅰ	1後		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1前		1		○								兼1
	中国語Ⅰ	1後		1		○								兼1
	中国語Ⅱ	1前		1		○								兼1
	スペイン語Ⅰ	1後		1		○								兼1
	スペイン語Ⅱ	1前		1		○								兼1
	ハンブルⅠ	1後		1		○								兼1
	ハンブルⅡ	4後		2				○			1			兼1
	海外研修	4後		2							1			兼1
海外インターンシップ	—		2	18	0	—			0	0	1	0	0	兼8
小計（16科目）	—		2	18	0	—			0	0	1	0	0	兼8

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
融合人材育成科目	デザイン創造キャリア・ ベンチャー起業論 医療科学キャリアパス レギュラトリーサイエンス 医工連携・技術開発論	アントレプレナーシップ	1後	2			○								兼2	共同
		規格及び知財管理学	1後	1			○			1					兼1	オムニバス
		機能デザイン工学	2後	1			○			1						
		ベンチャー起業論	3前		1		○				1				兼1	オムニバス・ 共同（一部）
		医療科学キャリアパス	3後		1		○								兼1	
		レギュラトリーサイエンス	3後	1			○								兼2	共同
		医工連携・技術開発論	3後	2			○			1						
小計（7科目）	—	7	2	0	—	—	—	2	1	1	0	0	兼6	—		
先進領域融合科目群	医療情報システム論 ゲノム再生医療学 グローバルヘルス・セキュリティ 医療データ解析・活用論 人工知能基礎 医療とAI ゲノム解析学 クリニカルオンコロジー ワンヘルスサイエンス 人工臓器学(運動器系) 人工臓器学(感覚器系) 人工臓器学(広領域) 医学・生命科学ビッグデータAI解析技術論	1前	1			○				1					兼1	※演習 オムニバス
		2前	2			○			1					兼11	オムニバス・ 共同（一部）	
		2前	2			○								兼1		
		2後		1		○				1						
		2後		2		○								兼1		
		3前		2		○				1				兼2	オムニバス	
		3前		2		○					2				※演習 オムニバス	
		3前		2		○				1				兼11	オムニバス	
		3後		2		○								兼3	共同	
		3後		2		○				1				兼5	オムニバス	
		3後		1		○								兼5	オムニバス	
		3後		2		○				1	1				兼3	オムニバス 共同
小計（13科目）	—	7	16	0	—	—	—	2	2	2	0	0	兼35	—		
ト医療 科目 マ ネ ジ メ ン ト	関係法規 医療マネジメント論 地域医療政策論 メディカルリスクマネジメント論 病院マネジメント論	1後	1			○			1		1					オムニバス
		1後	2			○			1							
		2前	1			○									兼1	
		2後	2			○									兼1	
		3前		2		○			1		1					オムニバス
小計（5科目）	—	6	2	0	—	—	—	2	0	1	0	0	兼2	—		
専門科目	コース 共通 専門 分野	解剖学	1前	1			○								兼1	
		解剖学実習	1後	1					○	1					兼1	
		看護学概説	1前		1		○								兼2	共同
		生命ホメオスタシス学Ⅰ	1後	1			○			1					兼5	※演習 オムニバス・ 共同（一部）
		生命ホメオスタシス学Ⅱ	1後	1			○								兼2	オムニバス
		イムノメタボリズム学Ⅰ	1後	1			○								兼4	オムニバス
		イムノメタボリズム学Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		組織学	1後	1			○								兼1	
		臨床病態学（内科）	2通	2			○			1					兼7	オムニバス
		臨床病態学（外科）	2前	2			○			2					兼9	オムニバス
		臨床病態学（麻酔・救急）	2前	2			○								兼3	共同
		臨床病理学Ⅰ	2前	2			○					1			兼2	オムニバス
		微生物学	2前	2			○								兼3	共同
		画像診断学	2後	2			○								兼1	
		医用工学	2後		2		○			1			1			オムニバス
		医用機器学	2後		2		○			2		1				オムニバス
病態薬理学	3前	1			○								兼1			
生体計測装置学	3前		2		○			3	1	1	1		兼3	オムニバス		
臨床支援技術学	3後		2		○			3		1	1			オムニバス		
多職種連携演習	4後		1				○	2	1	1			兼1			
小計（20科目）	—	20	10	0	—	—	—	5	1	3	1	0	兼43	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	生命健康科学コース専門分野	臨床検査の基礎と疾病との関連	1前	1			○								兼2	オムニバス
		生命ホメオスタシス学Ⅲ	2前	2			○			1	1				兼2	オムニバス・共同(一部)
		イムノメタボリズム学Ⅲ	2前	2			○			1	1					共同
		イムノメタボリズム学Ⅳ	2後	1			○								兼6	オムニバス
		臨床病理学Ⅱ	2後	2			○					1			兼2	オムニバス
		臨床検査学	2通	3				○		1	1					
		微生物検査学	2後	2			○					1			兼2	※実験
		腫瘍血液内科学Ⅰ	2後	2			○								兼1	
		腫瘍血液内科学Ⅱ	3後	2				○							兼1	
		生命ホメオスタシス解析学Ⅰ	2後	2				○		2	1				兼3	
		生命ホメオスタシス解析学Ⅱ	3前		2			○		2	1				兼2	
		病理・細胞診断学Ⅰ	3前	2			○					2				オムニバス
		病理・細胞診断学Ⅱ	3後		2			○				2				
		臨床検査総合管理学	3後	2			○								兼1	
		輸血・移植検査学	3後	2				○							兼1	
		イムノメタボリズム解析学	3通	2				○		1	1					
		メディカルキャリアデザイン	4通		2		○			1	1	1				共同
		臨地実習	4前		12				○	3	1	1				
	小計(18科目)	—	27	18	0	—	—	—	3	1	2	0	0	兼17	—	
臨床医工学コース専門分野		プログラミング	1前	2			○									
		リハビリテーション概論	1前	1			○								兼1	
		電気回路1	1後	2			○			1						
		電気回路2	2前	2			○			1						
		生体情報工学	1後	2			○								兼1	
		電磁気学	2前	2			○								兼1	
		機械工学概論	2前	2			○								兼1	
		化学Ⅲ	2前	1			○					1				
		フーリエ解析	2後		2		○								兼1	
		電子回路	2後	2			○								兼1	
		医療材料学	2後		2		○			2					兼4	オムニバス
		計測工学	3前		2		○								兼1	
		電気電子工学実験	3前	2				○		1					兼3	
		人工臓器学(代謝系)	3前	2			○				1	1	1			オムニバス
		人工臓器学(呼吸器系)	3前	2			○					1				
		人工臓器学(循環器系)	3前	2			○			1						
		人工臓器学(代謝系)実習	3前	1				○				2	1			
		人工臓器学(呼吸器系)実習	3前	1				○				1				
	人工臓器学(循環器系)実習	3前	1				○		1							
	医用機器安全管理学	3後		2		○					1					
	ロボット工学	3後	2			○								兼1		
	応用数学B	3後		2		○								兼1		
	メディカルキャリアデザイン	4通		2		○					2	1			共同	
	臨地実習	4前		7				○			2	1				
	小計(24科目)	—	29	19	0	—	—	—	3	1	3	1	0	兼12	—	
研究科目		研究室配属Ⅰ	2後	2			○		7	3	5	1				
		研究室配属Ⅱ	3通	4			○		7	3	5	1				
		卒業研究	4通	4			○		7	3	5	1				
		小計(3科目)	—	10	0	0	—	—	—	7	3	5	1	0		
合計(133科目)			—	119	104	0	—	—	7	3	5	1	0	兼106	—	
学位又は称号	学士(医療科学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【生命健康科学コース】</p> <p>1. 基礎分野科目 23単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「実験系研究者のための生物学」「生命科学研究概論」「栄養学」 5単位</p> <p>(3) 「数学Ⅰ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2単位選択必修</p> <p>(4) 「数学Ⅱ」「物理Ⅱ」「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から2単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 36単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ハングルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ハングルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 51単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「医用工学」「生体計測装置学」 4単位</p> <p>(2) 生命健康科学コース専門分野 必修科目 27単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 5単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【臨床医工学コース】</b></p> <p>1. 基礎分野科目 20単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」 4単位</p> <p>(3) 「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1単位選択必修</p> <p>(4) 「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から1単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 39単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「ハングルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「ハングルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>「医療データ解析・活用論」・「医療とAI」 3単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 50単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「看護学概説」 1単位</p> <p>(2) 臨床医工学コース専門分野 必修科目 29単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 6単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要															
(医学部先進医療科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	データサイエンス入門	1前	1			○								兼2	メディア
	大分大学入門	1前		1		○								兼1	メディア
小計（2科目）		—	1	1	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
融合科目	地域医療政策論	2前	1			○								兼1	
	小計（1科目）	—	1	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
専門科目	リハビリテーション概論	1前	1			○								兼1	
	電気回路1	1後	2			○			1						
	電気回路2	2前	2			○			1						
	生体情報工学	1後	2			○								兼1	
	電磁気学	2前	2			○								兼1	
	機械工学概論	2前	2			○								兼1	
	フーリエ解析	2後		2		○								兼1	
	電子回路	2後	2			○								兼1	
	計測工学	3前		2		○								兼1	
	電気電子工学実験	3前	2					○	1					兼3	
	ロボット工学	3後	2			○								兼1	
	応用数学B	3後		2		○								兼1	
小計（12科目）		—	17	6	0	—			1	0	0	0	0	兼8	—
合計（15科目）		—	19	7	0	—			1	0	0	0	0	兼10	—
学位又は称号	学士（医療科学）	学位又は学科の分野		保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【生命健康科学コース】</p> <p>1. 基礎分野科目 23単位  (1) 必修科目 11単位  (2) 「実験系研究者のための生物学」「生命科学研究概論」「栄養学」 5単位  (3) 「数学Ⅰ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2単位選択必修  (4) 「数学Ⅱ」「物理Ⅱ」「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から2単位選択必修  (5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 36単位  (1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位  「ドイツ語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ハングルⅠ」から1単位選択必修  「ドイツ語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ハングルⅡ」から1単位選択必修  (2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位  (3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位  (4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位  (5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 51単位  (1) コース共通専門分野 必修科目 20単位  「医用工学」「生体計測装置学」 4単位  (2) 生命健康科学コース専門分野 必修科目 27単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 5単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	<p>【臨床医工学コース】</p> <p>1. 基礎分野科目 20単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」 4単位</p> <p>(3) 「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1単位選択必修</p> <p>(4) 「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から1単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 39単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「ハングルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「ハングルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>「医療データ解析・活用論」・「医療とAI」 3単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 50単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「看護学概説」 1単位</p> <p>(2) 臨床医工学コース専門分野 必修科目 29単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 6単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週
1時限の授業時間		90分



教育課程等の概要

（医学部先進医療科学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎分野科目	医療科学入門	1前	2			○			7	3	5	1		オムニバス
	早期体験実習	1前	1					○	1					兼1
	健康科学概論	1前	1			○			1					兼1 共同
	医療倫理学Ⅰ	1前	1			○								兼1
	医療倫理学Ⅱ	1後	1			○								兼1
	心理行動科学	1前	1			○								兼1
	健康運動科学Ⅰ	1前	1				○							兼1
	健康運動科学Ⅱ	1後	1				○							兼1
	コミュニケーション学	1後	1			○								兼1
	実験系研究者のための生物学	1前		2			○				1			
	生命科学研究概論	1後		2			○				2			オムニバス
	数学Ⅰ	1前		1			○							兼1
	数学Ⅱ	1後		1			○							兼1
	物理Ⅰ	1前		1			○							兼1
	物理Ⅱ	1後		1			○							兼1
	化学Ⅰ	1前		1			○							兼1
	化学Ⅱ	1後		1			○							兼1
	生物Ⅰ	1前		1			○							兼1
	生物Ⅱ	1後		1			○							兼1
	日本の古典文学を学ぶ	1前		1			○							兼1
	ドイツ文学	1前		1			○							兼1
	音楽	1後		1			○							兼1
	日本近代文学	1後		1			○							兼1
	自己理解のための心理臨床学入門	1前		1			○							兼1
	栄養学	2前		1			○							兼1
小計（25科目）		—	10	18	0	—			7	3	5	1	0	兼15
融合人材育成科目群	国際力強化科目群	1前	1			○								兼1
	医療英語Ⅰ	1後	1			○								兼1
	医療英語Ⅱ	2前		1		○								兼1
	医療英会話Ⅰ	2後		1		○								兼1
	医療英会話Ⅱ	1後		2		○								兼2 共同
	グローバルコミュニケーションⅠ	3通		2		○								兼2 共同
	グローバルコミュニケーションⅡ	1前		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅰ	1後		1		○								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1前		1		○								兼1
	中国語Ⅰ	1後		1		○								兼1
	中国語Ⅱ	1前		1		○								兼1
	スペイン語Ⅰ	1後		1		○								兼1
	スペイン語Ⅱ	1前		1		○								兼1
	ハングルⅠ	1後		1		○								兼1
	ハングルⅡ	4後		2				○			1			兼1
	海外研修	4後		2					○		1			兼1
海外インターンシップ			2							1			兼1	
小計（16科目）		—	2	18	0	—			0	0	1	0	0	兼8

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
融合人材育成科目	デザイン創造キャリア・	アントレプレナーシップ	1後	2			○								兼2	共同
		規格及び知財管理学	1後	1			○			1					兼1	オムニバス
		機能デザイン工学	2後	1			○			1						
		ベンチャー起業論	3前		1		○			1		1			兼1	オムニバス・共同 (一部)
		医療科学キャリアパス	3後		1		○								兼1	
		レギュラトリーサイエンス	3後	1			○								兼2	共同
		医工連携・技術開発論	3後	2			○			1						
小計 (7科目)	—	7	2	0		—		2	1	1	0	0	兼6	—		
先進領域融合科目群	医療情報システム論	1前	1			○				1				兼1	※演習 オムニバス	
	ゲノム再生医療学	2前	2			○			1					兼11	オムニバス・共同 (一部)	
	グローバルヘルス・セキュリティ	2前	2			○								兼1		
	医療データ解析・活用論	2後		1		○				1				兼1		
	人工知能基礎	2後		2		○								兼1		
	医療とAI	3前		2		○				1				兼2	オムニバス	
	ゲノム解析学	3前		2		○					2			兼2	※演習 オムニバス	
	クリニカルオンコロジー	3前		2		○			1					兼11	オムニバス	
	ワンヘルスサイエンス	3後		2		○								兼3	共同	
	人工臓器学(運動器系)	3後		2		○			1					兼5	オムニバス	
	人工臓器学(感覚器系)	3後		1		○								兼5	オムニバス	
人工臓器学(広領域)	3後		2		○			1	1				兼5	オムニバス		
医学・生命科学ビッグデータAI解析技術論	3通	2			○								兼3	共同		
小計 (13科目)	—	7	16	0		—		2	2	2	0	0	兼35	—		
医療科目マネジメント	関係法規	1後	1			○			1		1				オムニバス	
	医療マネジメント論	1後	2			○			1							
	メディカルリスクマネジメント論	2後	2			○								兼1		
	病院マネジメント論	3前		2		○			1		1				オムニバス	
小計 (4科目)	—	5	2	0		—		2	0	1	0	0	兼1	—		
専門科目	コース共通専門分野	解剖学	1前	1			○								兼1	
		解剖学実習	1後	1					○	1					兼1	
		看護学概説	1前		1		○								兼2	共同
		生命ホメオスタシス学Ⅰ	1後	1			○			1					兼5	※演習 オムニバス・共同 (一部)
		生命ホメオスタシス学Ⅱ	1後	1			○								兼2	オムニバス
		イムノメタボリズム学Ⅰ	1後	1			○								兼4	オムニバス
		イムノメタボリズム学Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		組織学	1後	1			○								兼1	
		臨床病態学(内科)	2通	2			○			1					兼7	オムニバス
		臨床病態学(外科)	2前	2			○			2					兼9	オムニバス
		臨床病態学(麻酔・救急)	2前	2			○								兼3	共同
		臨床病理学Ⅰ	2前	2			○					1			兼2	オムニバス
		微生物学	2前	2			○								兼3	共同
		画像診断学	2後	2			○								兼1	
		医用工学	2後		2		○			1			1			オムニバス
		医用機器学	2後		2		○			2		1				オムニバス
		病態薬理学	3前	1			○								兼1	
生体計測装置学	3前		2		○			3	1	1	1		兼3	オムニバス		
臨床支援技術学	3後		2		○			3		1	1			オムニバス		
多職種連携演習	4後		1			○		2	1	1			兼1			
小計 (20科目)	—	20	10	0		—		5	1	3	1	0	兼43	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	生命健康科学コース専門分野	臨床検査の基礎と疾病との関連	1前	1			○									兼2	オムニバス
		生命ホメオスタシス学Ⅲ	2前	2			○			1	1					兼2	オムニバス・共同 (一部) 共同
		イムノメタボリズム学Ⅲ	2前	2			○			1	1						共同
		イムノメタボリズム学Ⅳ	2後	1			○									兼6	オムニバス
		臨床病理学Ⅱ	2後	2			○					1				兼2	オムニバス
		臨床検査学	2通	3				○		1	1						
		微生物検査学	2後	2			○					1				兼2	※実験
		腫瘍血液内科学Ⅰ	2後	2			○									兼1	
		腫瘍血液内科学Ⅱ	3後	2				○								兼1	
		生命ホメオスタシス解析学Ⅰ	2後	2				○		2	1					兼3	
		生命ホメオスタシス解析学Ⅱ	3前		2			○		2	1					兼2	
		病理・細胞診断学Ⅰ	3前	2			○					2					オムニバス
		病理・細胞診断学Ⅱ	3後		2			○				2					
		臨床検査総合管理学	3後	2			○									兼1	
		輸血・移植検査学	3後	2				○								兼1	
		イムノメタボリズム解析学	3通	2				○		1	1						
		メディカルキャリアデザイン	4通		2		○			1	1	1					共同
		臨地実習	4前		12				○	3	1	1					
	小計 (18科目)	—	27	18	0		—		3	1	2	0	0	兼17	—		
臨床医工学コース専門分野	プログラミング	1前	2			○			1								
	化学Ⅲ	2前	1			○					1						
	医療材料学	2後		2		○			2						兼4	オムニバス	
	人工臓器学(代謝系)	3前	2			○				1	1	1				オムニバス	
	人工臓器学(呼吸器系)	3前	2			○					1						
	人工臓器学(循環器系)	3前	2			○			1								
	人工臓器学(代謝系)実習	3前	1				○				2	1					
	人工臓器学(呼吸器系)実習	3前	1				○				1						
	人工臓器学(循環器系)実習	3前	1				○		1								
	医用機器安全管理学	3後		2		○					1						
メディカルキャリアデザイン	4通		2		○					2	1				共同		
臨地実習	4前		7				○			2	1						
小計 (12科目)	—	12	13	0		—		3	1	3	1	0	兼4	—			
研究科目	研究室配属Ⅰ	2後	2				○		7	3	5	1					
	研究室配属Ⅱ	3通	4				○		7	3	5	1					
	卒業研究	4通	4				○		7	3	5	1					
	小計 (3科目)	—	10	0	0		—		7	3	5	1	0				
合計 (118科目)			—	100	97	0	—		7	3	5	1	0	兼97	—		
学位又は称号	学士 (医療科学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【生命健康科学コース】</b></p> <p>1. 基礎分野科目 23単位  (1) 必修科目 11単位  (2) 「実験系研究者のための生物学」「生命科学研究概論」「栄養学」 5単位  (3) 「数学Ⅰ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2単位選択必修  (4) 「数学Ⅱ」「物理Ⅱ」「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から2単位選択必修  (5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 36単位  (1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位  「ドイツ語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ハンゲルⅠ」から1単位選択必修  「ドイツ語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ハンゲルⅡ」から1単位選択必修  (2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位  (3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位  (4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位  (5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 51単位  (1) コース共通専門分野 必修科目 20単位  「医用工学」「生体計測装置学」 4単位  (2) 生命健康科学コース専門分野 必修科目 27単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 5単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【臨床医工学コース】</b></p> <p>1. 基礎分野科目 20単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」 4単位</p> <p>(3) 「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1単位選択必修</p> <p>(4) 「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から1単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 39単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「ハンブルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「ハンブルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>「医療データ解析・活用論」・「医療とAI」 3単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 50単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「看護学概説」 1単位</p> <p>(2) 臨床医工学コース専門分野 必修科目 29単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 6単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

（医学部先進医療科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎分野科目	医療科学入門	1前	2			○			8	4	4			兼1	オムニバス	
	早期体験実習	1前	1					○	1					兼1		
	健康科学概論	1前	1			○			1					兼1	共同	
	医療倫理学Ⅰ	1前	1			○								兼1		
	医療倫理学Ⅱ	1後	1			○								兼1	メディア	
	心理行動科学	1前	1			○								兼1		
	データサイエンス入門	1前	1			○								兼2		
	健康運動科学Ⅰ	1前	1				○							兼1	メディア	
	健康運動科学Ⅱ	1後	1				○							兼1		
	コミュニケーション学	1後	1			○								兼1	オムニバス	
	実験系研究者のための生物学	1前		2		○					1					
	生命科学研究概論	1後		2		○					2					
	数学Ⅰ	1前		1		○								兼1	オムニバス	
	数学Ⅱ	1後		1		○								兼1		
	物理Ⅰ	1前		1		○								兼1	メディア	
	物理Ⅱ	1後		1		○								兼1		
	化学Ⅰ	1前		1		○								兼1	メディア	
	化学Ⅱ	1後		1		○								兼1		
	生物Ⅰ	1前		1		○								兼1	メディア	
	生物Ⅱ	1後		1		○								兼1		
	日本の古典文学を学ぶ	1前		1		○								兼1	メディア	
	ドイツ文学	1前		1		○								兼1		
	音楽	1後		1		○								兼1	メディア	
	日本近代文学	1後		1		○								兼1		
	自己理解のための心理臨床学入門	1前		1		○								兼1	メディア	
	大分大学入門	1前		1		○								兼1		
	栄養学	2前		1		○								兼1		
小計（27科目）		—	11	19	0	—	—	—	8	4	4	0	0	兼17	—	
融合人材育成科目群	国際力強化科目群	医療英語Ⅰ	1前	1		○								兼1	共同 共同	
		医療英語Ⅱ	1後	1		○								兼1		
		医療英会話Ⅰ	2前		1		○							兼1		
		医療英会話Ⅱ	2後		1		○							兼1		
		グローバルコミュニケーションⅠ	1後		2		○							兼2		
		グローバルコミュニケーションⅡ	3通		2		○							兼2		
		ドイツ語Ⅰ	1前		1		○							兼1		
		ドイツ語Ⅱ	1後		1		○							兼1		
		中国語Ⅰ	1前		1		○							兼1		
		中国語Ⅱ	1後		1		○							兼1		
		スペイン語Ⅰ	1前		1		○							兼1		
		スペイン語Ⅱ	1後		1		○							兼1		
		ハングルⅠ	1前		1		○							兼1		
		ハングルⅡ	1後		1		○							兼1		
		海外研修	4後		2				○				1			兼1
		海外インターンシップ	4後		2				○				1			兼1
小計（16科目）		—	2	18	0	—	—	—	0	0	1	0	0	兼8	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
融合人材育成科目	デザイン創造キャリア・ アントレプレナーシップ 規格及び知財管理学 機能デザイン工学 ベンチャー起業論 医療科学キャリアパス レギュラトリーサイエンス 医工連携・技術開発論	1後	2			○									兼2 兼1	共同 オムニバス		
		1後	1			○			1									
		2後	1			○			1									
		3前		1		○					1					兼1	オムニバス・ 共同（一部）	
		3後		1		○										兼1		
		3後	1			○										兼2	共同	
		3後	2			○			1									
小計（7科目）	—	7	2	0	—	—	3	0	1	0	0	0	0	兼6	—			
先進領域融合科目群	医療情報システム論 ゲノム再生医療学 グローバルヘルス・セキュリティ 医療データ解析・活用論 人工知能基礎 医療とAI ゲノム解析学 クリニカルオンコロジー ワンヘルスサイエンス 人工臓器学(運動器系) 人工臓器学(感覚器系) 人工臓器学(広領域) 医学・生命科学ビッグデータAI解析技術論	1前	1			○				1						兼1	※演習 オムニバス	
		2前	2			○			1							兼11	オムニバス・ 共同（一部）	
		2前	2			○										兼1		
		2後		1		○				1								
		2後		2		○										兼1		
		3前		2		○					1					兼2	オムニバス	
		3前		2		○						2					※演習 オムニバス	
		3前		2		○				1						兼11	オムニバス	
		3後		2		○										兼3	共同	
		3後		2		○				1						兼5	オムニバス	
		3後		1		○										兼5	オムニバス	
		3後		2		○				2							兼3	オムニバス 共同
		3通	2			○										兼3	共同	
小計（13科目）	—	7	16	0	—	—	3	1	2	0	0	0	0	兼35	—			
ト医療 科目 マ ネ ジ メ ン ト 群	関係法規 医療マネジメント論 地域医療政策論 メディカルリスクマネジメント論 病院マネジメント論	1後	1			○			1	1						オムニバス		
		1後	2			○			1									
		2前	1			○										兼1		
		2後	2			○										兼1		
		3前		2		○			1	1							オムニバス	
小計（5科目）	—	6	2	0	—	—	2	1	0	0	0	0	0	兼2	—			
専門科目	コース共通専門分野 解剖学 解剖学実習 看護学概説 生命ホメオスタシス学Ⅰ 生命ホメオスタシス学Ⅱ イムノメタボリズム学Ⅰ イムノメタボリズム学Ⅱ 組織学 臨床病態学（内科） 臨床病態学（外科） 臨床病態学（麻酔・救急） 臨床病理学Ⅰ 微生物学 画像診断学 医用工学 医用機器学 病態薬理学 生体計測装置学 臨床支援技術学 多職種連携演習	1前	1			○										兼1		
		1後	1					○	1							兼1		
		1前		1		○										兼2	共同	
		1後	1			○			1		1					兼5	※演習 オムニバス・ 共同（一部）	
		1後	1			○										兼2	オムニバス	
		1後	1			○										兼4	オムニバス	
		1後	1			○										兼1		
		1後	1			○										兼1		
		2通	2			○			1							兼7	オムニバス	
		2前	2			○			2							兼9	オムニバス	
		2前	2			○										兼3	共同	
		2前	2			○						1				兼2	オムニバス	
		2前	2			○										兼3	共同	
		2後	2			○										兼1		
		2後		2		○			1		1						オムニバス	
		2後		2		○			2	1							オムニバス	
3前	1			○										兼1				
3前		2		○			5	3	1						オムニバス			
3後		2		○			3	1	1						オムニバス			
4後		1				○	2	1	1					兼1				
小計（20科目）	—	20	10	0	—	—	6	3	3	0	0	0	0	兼42	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	生命健康科学コース専門分野	臨床検査の基礎と疾病との関連	1前	1			○								兼2	オムニバス
		生命ホメオスタシス学Ⅲ	2前	2			○			2	1					オムニバス・共同(一部)
		イムノメタボリズム学Ⅲ	2前	2			○			1	1					共同
		イムノメタボリズム学Ⅳ	2後	1			○								兼6	オムニバス
		臨床病理学Ⅱ	2後	2			○					1			兼2	オムニバス
		臨床検査学	2通	3				○		1	1					
		微生物検査学	2後	2			○					1			兼2	※実験
		腫瘍血液内科学Ⅰ	2後	2			○								兼1	
		腫瘍血液内科学Ⅱ	3後	2				○							兼1	
		生命ホメオスタシス解析学Ⅰ	2後	2				○		2	1	1				
		生命ホメオスタシス解析学Ⅱ	3前		2			○		2	1	1				
		病理・細胞診断学Ⅰ	3前	2			○					2				オムニバス
		病理・細胞診断学Ⅱ	3後		2			○				2				
		臨床検査総合管理学	3後	2			○								兼1	
		輸血・移植検査学	3後	2				○							兼1	
		イムノメタボリズム解析学	3通	2				○		1	1					
		メディカルキャリアデザイン	4通		2		○			1	1	1				共同
		臨地実習	4前		12				○	3	1	1				
	小計(18科目)	—	27	18	0	—	—	—	3	1	3	0	0	兼14	—	
臨床医工学コース専門分野		プログラミング	1前	2			○									
		リハビリテーション概論	1前	1			○								兼1	
		電気回路1	1後	2			○			1						
		電気回路2	2前	2			○			1						
		生体情報工学	1後	2			○								兼1	
		電磁気学	2前	2			○								兼1	
		機械工学概論	2前	2			○								兼1	
		化学Ⅲ	2前	1			○					1				
		フーリエ解析	2後		2		○								兼1	
		電子回路	2後	2			○								兼1	
		医療材料学	2後		2		○			1	2					オムニバス
		計測工学	3前		2		○								兼1	
		電気電子工学実験	3前	2					○	1					兼3	
		人工臓器学(代謝系)	3前	2			○			1	1	1				オムニバス
		人工臓器学(呼吸器系)	3前	2			○				1					
		人工臓器学(循環器系)	3前	2			○			1						
		人工臓器学(代謝系)実習	3前	1					○		2	1				
		人工臓器学(呼吸器系)実習	3前	1					○		1					
	人工臓器学(循環器系)実習	3前	1					○	1							
	医用機器安全管理学	3後		2		○				1						
	ロボット工学	3後	2			○								兼1		
	応用数学B	3後		2		○								兼1		
	メディカルキャリアデザイン	4通		2		○			2	1					共同	
	臨地実習	4前		7				○		2	1					
	小計(24科目)	—	29	19	0	—	—	—	3	2	2	0	0	兼8	—	
研究科目		研究室配属Ⅰ	2後	2			○		8	4	4					
		研究室配属Ⅱ	3通	4			○		8	4	4					
		卒業研究	4通	4			○		8	4	4					
		小計(3科目)	—	10	0	0	—	—	—	8	4	4	0	0		—
合計(133科目)			—	119	104	0	—	—	8	4	4	0	0	兼101	—	
学位又は称号	学士(医療科学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)													



卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【生命健康科学コース】</p> <p>1. 基礎分野科目 23単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「実験系研究者のための生物学」「生命科学研究概論」「栄養学」 5単位</p> <p>(3) 「数学Ⅰ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2単位選択必修</p> <p>(4) 「数学Ⅱ」「物理Ⅱ」「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から2単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 36単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ハングルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ハングルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 51単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「医用工学」「生体計測装置学」 4単位</p> <p>(2) 生命健康科学コース専門分野 必修科目 27単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 5単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【臨床医工学コース】</b></p> <p>1. 基礎分野科目 20単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」 4単位</p> <p>(3) 「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1単位選択必修</p> <p>(4) 「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から1単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 39単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「ハングルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「ハングルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>「医療データ解析・活用論」・「医療とAI」 3単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 50単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「看護学概説」 1単位</p> <p>(2) 臨床医工学コース専門分野 必修科目 29単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 6単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要															
(医学部先進医療科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	データサイエンス入門	1前	1			○								兼2	メディア
	大分大学入門	1前		1		○								兼1	メディア
小計（2科目）		—	1	1	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
育成科目	地域医療政策論	2前	1			○								兼1	
	小計（1科目）	—	1	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
専門科目	リハビリテーション概論	1前	1			○								兼1	
	電気回路1	1後	2			○			1						
	電気回路2	2前	2			○			1						
	生体情報工学	1後	2			○								兼1	
	電磁気学	2前	2			○								兼1	
	機械工学概論	2前	2			○								兼1	
	フーリエ解析	2後		2		○								兼1	
	電子回路	2後	2			○								兼1	
	計測工学	3前		2		○								兼1	
	電気電子工学実験	3前	2					○	1					兼3	
	ロボット工学	3後	2			○								兼1	
	応用数学B	3後		2		○								兼1	
小計（12科目）		—	17	6	0	—			1	0	0	0	0	兼8	—
合計（15科目）		—	19	7	0	—			1	0	0	0	0	兼10	—
学位又は称号	学士（医療科学）	学位又は学科の分野		保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	<p>【生命健康科学コース】</p> <p>1. 基礎分野科目 23単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「実験系研究者のための生物学」「生命科学研究概論」「栄養学」 5単位</p> <p>(3) 「数学Ⅰ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2単位選択必修</p> <p>(4) 「数学Ⅱ」「物理Ⅱ」「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から2単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 36単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ハングルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ハングルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 51単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「医用工学」「生体計測装置学」 4単位</p> <p>(2) 生命健康科学コース専門分野 必修科目 27単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 5単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週
1時限の授業時間		90分

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【臨床医工学コース】</p> <p>1. 基礎分野科目 20単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」 4単位</p> <p>(3) 「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1単位選択必修</p> <p>(4) 「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から1単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 39単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「ハングルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「ハングルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>「医療データ解析・活用論」・「医療とAI」 3単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 50単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「看護学概説」 1単位</p> <p>(2) 臨床医工学コース専門分野 必修科目 29単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 6単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

（医学部先進医療科学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野科目	医療科学入門	1前	2			○			8	4	4				オムニバス
	早期体験実習	1前	1					○	1						兼1
	健康科学概論	1前	1			○			1						兼1
	医療倫理学Ⅰ	1前	1			○									兼1
	医療倫理学Ⅱ	1後	1			○									兼1
	心理行動科学	1前	1			○									兼1
	健康運動科学Ⅰ	1前	1					○							兼1
	健康運動科学Ⅱ	1後	1					○							兼1
	コミュニケーション学	1後	1			○									兼1
	実験系研究者のための生物学	1前		2								1			
	生命科学研究概論	1後		2								2			オムニバス
	数学Ⅰ	1前		1											兼1
	数学Ⅱ	1後		1											兼1
	物理Ⅰ	1前		1											兼1
	物理Ⅱ	1後		1											兼1
	化学Ⅰ	1前		1											兼1
	化学Ⅱ	1後		1											兼1
	生物Ⅰ	1前		1											兼1
	生物Ⅱ	1後		1											兼1
	日本の古典文学を学ぶ	1前		1											兼1
	ドイツ文学	1前		1											兼1
	音楽	1後		1											兼1
	日本近代文学	1後		1											兼1
	自己理解のための心理臨床学入門	1前		1											兼1
	栄養学	2前		1											兼1
小計（25科目）		—	10	18	0	—			8	4	4	0	0	兼15	—
融合人材育成科目群	国際力強化科目群														
	医療英語Ⅰ	1前	1			○									兼1
	医療英語Ⅱ	1後	1			○									兼1
	医療英会話Ⅰ	2前		1		○									兼1
	医療英会話Ⅱ	2後		1		○									兼1
	グローバルコミュニケーションⅠ	1後		2		○									兼2
	グローバルコミュニケーションⅡ	3通		2		○									兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1		○									兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1		○									兼1
	中国語Ⅰ	1前		1		○									兼1
	中国語Ⅱ	1後		1		○									兼1
	スペイン語Ⅰ	1前		1		○									兼1
	スペイン語Ⅱ	1後		1		○									兼1
	ハングルⅠ	1前		1		○									兼1
	ハングルⅡ	1後		1		○									兼1
海外研修	4後		2								1				
海外インターンシップ	4後		2								1				
小計（16科目）		—	2	18	0	—			0	0	1	0	0	兼8	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
融合人材育成科目	デザイン創造キャリア・	アントレプレナーシップ	1後	2			○								兼2	共同
		規格及び知財管理学	1後	1			○			1					兼1	オムニバス
		機能デザイン工学	2後	1			○			1						
		ベンチャー起業論	3前		1		○			1		1			兼1	オムニバス・共同 (一部)
		医療科学キャリアパス	3後		1		○								兼1	
		レギュラトリーサイエンス	3後	1			○								兼2	共同
		医工連携・技術開発論	3後	2			○			1						
小計 (7科目)		—	7	2	0		—	3	0	1	0	0	兼6	—		
先進領域融合科目群		医療情報システム論	1前	1			○			1					兼1	※演習 オムニバス
		ゲノム再生医療学	2前	2			○			1					兼11	オムニバス・共同 (一部)
		グローバルヘルス・セキュリティ	2前	2			○								兼1	
		医療データ解析・活用論	2後		1		○				1				兼1	
		人工知能基礎	2後		2		○								兼1	
		医療とAI	3前		2		○				1				兼2	オムニバス
		ゲノム解析学	3前		2		○					2			兼1	※演習 オムニバス
		クリニカルオンコロジー	3前		2		○			1					兼11	オムニバス
		ワンヘルスサイエンス	3後		2		○								兼3	共同
		人工臓器学(運動器系)	3後		2		○			1					兼5	オムニバス
		人工臓器学(感覚器系)	3後		1		○								兼5	オムニバス
人工臓器学(広領域)	3後		2		○			2					兼3	オムニバス 共同		
医学・生命科学ビッグデータAI解析技術論	3通	2			○								兼3	共同		
小計 (13科目)		—	7	16	0		—	3	1	2	0	0	兼35	—		
医療科目マネジメント		関係法規	1後	1			○		1	1						オムニバス
		医療マネジメント論	1後	2			○		1							
		メディカルリスクマネジメント論	2後	2			○								兼1	
		病院マネジメント論	3前		2		○		1	1						オムニバス
小計 (4科目)		—	5	2	0		—	2	1		0	0	兼1	—		
専門科目	コース共通専門分野	解剖学	1前	1			○								兼1	
		解剖学実習	1後	1					○	1					兼1	
		看護学概説	1前		1		○								兼2	共同
		生命ホメオスタシス学Ⅰ	1後	1			○			1		1			兼5	※演習 オムニバス・共同 (一部)
		生命ホメオスタシス学Ⅱ	1後	1			○								兼2	オムニバス
		イムノメタボリズム学Ⅰ	1後	1			○								兼4	オムニバス
		イムノメタボリズム学Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		組織学	1後	1			○								兼1	
		臨床病態学(内科)	2通	2			○			1					兼7	オムニバス
		臨床病態学(外科)	2前	2			○			2					兼9	オムニバス
		臨床病態学(麻酔・救急)	2前	2			○								兼3	共同
		臨床病理学Ⅰ	2前	2			○					1			兼2	オムニバス
		微生物学	2前	2			○								兼3	共同
		画像診断学	2後	2			○								兼1	
		医用工学	2後		2		○			1		1				オムニバス
		医用機器学	2後		2		○			2	1					オムニバス
		病態薬理学	3前	1			○								兼1	
生体計測装置学	3前		2		○			5	3	1				オムニバス		
臨床支援技術学	3後		2		○			3	1	1				オムニバス		
多職種連携演習	4後		1				○	2	1	1			兼1			
小計 (20科目)		—	20	10	0		—	6	3	3	0	0	兼42	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	生命健康科学コース専門分野	臨床検査の基礎と疾病との関連	1前	1			○									兼2	オムニバス
		生命ホメオスタシス学Ⅲ	2前	2			○			2	1						オムニバス・共同 (一部)
		イムノメタボリズム学Ⅲ	2前	2			○			1	1						共同
		イムノメタボリズム学Ⅳ	2後	1			○									兼6	オムニバス
		臨床病理学Ⅱ	2後	2			○					1				兼2	オムニバス
		臨床検査学	2通	3				○		1	1						
		微生物検査学	2後	2			○					1				兼2	※実験
		腫瘍血液内科学Ⅰ	2後	2			○									兼1	
		腫瘍血液内科学Ⅱ	3後	2				○								兼1	
		生命ホメオスタシス解析学Ⅰ	2後	2				○	○	2	1	1					
		生命ホメオスタシス解析学Ⅱ	3前		2			○	○	2	1	1					
		病理・細胞診断学Ⅰ	3前	2			○					2					オムニバス
		病理・細胞診断学Ⅱ	3後		2			○				2					
		臨床検査総合管理学	3後	2			○									兼1	
		輸血・移植検査学	3後	2				○	○							兼1	
		イムノメタボリズム解析学	3通	2				○	○	1	1						
		メディカルキャリアデザイン	4通		2		○			1	1	1					共同
		臨地実習	4前		12				○	3	1	1					
	小計 (18科目)	—	27	18	0		—		3	1	3	0	0	兼14	—		
臨床医工学コース専門分野	プログラミング	1前	2			○			1								
	化学Ⅲ	2前	1			○					1						
	医療材料学	2後		2		○			1	2							オムニバス
	人工臓器学(代謝系)	3前	2			○			1	1	1						オムニバス
	人工臓器学(呼吸器系)	3前	2			○					1						
	人工臓器学(循環器系)	3前	2			○			1								
	人工臓器学(代謝系)実習	3前	1					○		2	1						
	人工臓器学(呼吸器系)実習	3前	1					○		1							
	人工臓器学(循環器系)実習	3前	1					○	1								
	医用機器安全管理学	3後		2			○			1							
メディカルキャリアデザイン	4通		2			○			2	1						共同	
	臨地実習	4前		7				○		2	1						
	小計 (12科目)	—	12	13	0		—		3	2	2	0	0	兼0	—		
研究科目	研究室配属Ⅰ	2後	2				○		8	4	4						
	研究室配属Ⅱ	3通	4				○		8	4	4						
	卒業研究	4通	4				○		8	4	4						
	小計 (3科目)	—	10	0	0		—		8	4	4	0	0				
合計 (118科目)			—	100	97	0	—		8	4	4	0	0	兼92	—		
学位又は称号	学士 (医療科学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)										



卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【生命健康科学コース】</b></p> <p>1. 基礎分野科目 23単位  (1) 必修科目 11単位  (2) 「実験系研究者のための生物学」「生命科学研究概論」「栄養学」 5単位  (3) 「数学Ⅰ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2単位選択必修  (4) 「数学Ⅱ」「物理Ⅱ」「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から2単位選択必修  (5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 36単位  (1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位  「ドイツ語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ハンゲルⅠ」から1単位選択必修  「ドイツ語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ハンゲルⅡ」から1単位選択必修  (2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位  (3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位  (4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位  (5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 51単位  (1) コース共通専門分野 必修科目 20単位  「医用工学」「生体計測装置学」 4単位  (2) 生命健康科学コース専門分野 必修科目 27単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 5単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【臨床医工学コース】</p> <p>1. 基礎分野科目 20単位</p> <p>(1) 必修科目 11単位</p> <p>(2) 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」 4単位</p> <p>(3) 「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1単位選択必修</p> <p>(4) 「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」から1単位選択必修</p> <p>(5) 基礎分野科目選択科目から 3単位</p> <p>2. 融合人材育成科目 39単位</p> <p>(1) 国際力強化科目群 必修科目 2単位</p> <p>「ドイツ語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「ハンゲルⅠ」から1単位選択必修</p> <p>「ドイツ語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「ハンゲルⅡ」から1単位選択必修</p> <p>(2) 未来創造キャリア・デザイン科目群 必修科目 7単位</p> <p>(3) 先進領域融合科目群 必修科目 7単位</p> <p>「医療データ解析・活用論」・「医療とAI」 3単位</p> <p>(4) 医療マネジメント科目群 必修科目 6単位</p> <p>(5) 融合人材育成科目の選択科目から 12単位</p> <p>3. 専門科目 50単位</p> <p>(1) コース共通専門分野 必修科目 20単位</p> <p>「看護学概説」 1単位</p> <p>(2) 臨床医工学コース専門分野 必修科目 29単位</p> <p>4. 融合人材育成科目及び専門科目の選択科目から 6単位</p> <p>5. 研究科目 10単位</p> <p>◆卒業要件125単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要			
（医学部先進医療科学科）			
科目区分		講義等の内容	備考
基礎分野科目	医療科学入門	<p>先進医療科学科の入門科目として、医療科学を学ぶうえで生物・化学・物理・マネジメント・情報の基礎とその利用及び科学研究の基礎について学修する。生命科学系・理工学系・マネジメント系・情報系科目を学ぶことで、「進化した医工連携」「深化した医学生命科学連携」の基礎となる俯瞰的知識を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全16回）</p> <p>（6 田中 和宏／1回） 生物の遺伝情報の保存と変異について概説する。</p> <p>（16 八尋 隆明／1回） 医療におけるゲノム解析学について概説する。</p> <p>（4 加藤 優子／1回） 新規バイオマーカーの探索法について概説する。</p> <p>（15 花田 克浩／1回） 環境によるストレスと生体のストレス応答について概説する。</p> <p>（③ 手嶋 泰之／1回） 心臓疾患の予防と改善をめざした基礎研究と臨床研究について概説する。</p> <p>（11 文室 知之／1回） 脳・神経が担う情報の受容と伝達の仕組みについて概説する。</p> <p>（13 内田 智久／1回） 医療と研究、さらに国際交流との関連について概説する。</p> <p>（① 穴井 博文／1回） 機械的循環補助について概説する。</p> <p>（④ 友 雅司／1回） 人工腎臓の過去、現在、未来について概説する。</p> <p>（⑤ 丹下 佳洋／1回） 人工臓器に応用される物理化学（分子拡散・濾過）について概説する。</p> <p>（⑥ 道越 淳一／1回） 生体機構と生体機能代行装置（呼吸・循環・代謝）について概説する。</p> <p>（② 兒玉 雅明／1回） 内視鏡を用いた消化器疾患の研究方法について概説する。</p> <p>（⑦ 梅田 涼平／1回） 医療工学分野における脳神経科学の可能性について概説する。</p> <p>（2 池内 秀隆／1回） 医療科学に必要な理工学分野の科目と知見について概説する。</p> <p>（9 安徳 恭彰／1回） 情報セキュリティ、および医療と情報が結びつく意義について概説する。</p> <p>（3 大崎 美泉／1回） 医療におけるマネジメントの意義と役割について概説する。</p>	オムニバス方式
	早期体験実習	<p>最新の医療科学の知識と技術・技能を領域横断的に学修した融合人材を育成するための初期段階として行う早期医療体験実習である。臨床現場に入り、見学・研修を行うことで、実際の医療における医療研究者の立場と役割を理解し、学生生活の早い段階から将来像とキャリアパスを描くことを目標とする。</p>	
	健康科学概論	<p>医学科、看護学科の学生とともに受講する。本講義を通して、医療人としてのプロフェッショナリズムや医の倫理と生命倫理、医学の歴史や生と死をめぐる文化的な多様性、医療現場での多職種連携の重要性等を学ぶ。また、グループ討論と発表会を通して、将来、生命学者・医学者として自分自身が備えるべき資質について考え、生涯学習の重要性を認識する。</p>	共同
	医療倫理学 I	<p>医療における倫理を学ぶ基礎として、倫理の概念、倫理学の歴史と規範倫理学を中心とする代表的な倫理理論の考え方を学修する。それを元に、現代社会における医療の意味、医の倫理が形成されてきた過程、医療や医療者に求められる倫理、様々な社会規範と倫理の関係性、望ましい医療者患者関係などについて、学びを深める。</p>	
	医療倫理学 II	<p>医療現場における倫理的課題の分析、考察ができる能力を養成することを目標とする。まず臨床倫理の概念と倫理的分析の方法を学ぶ。その後、多くの倫理的課題が顕在化する様々な最終段階の医療を題材として、臨床倫理の理解を深める。さらに、特殊、先進的な医療に特有の倫理的な課題につき、情報収集と倫理的考察をレポート課題として課し、倫理的考察能力を高める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野科目	心理行動科学	本講義は、医療者を目指す学生に必須の素養とされている心理学や行動科学の入門基礎コースである。心理学は、人の心や行動を実証的に研究する学問で、行動科学とも呼ばれる。心理学は自己や他者や人間関係の理解、改善・向上を目指し、人間の福祉の向上を図る実践的学問である。本授業では、心理学の基礎的知見や成果を中心に概説する。心理学がいかに私たちの日常の行動や暮らしに深くかかわっているかを心理学や行動科学と医学・医療について学修する。	
	データサイエンス入門	これからのデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことが要求される。本講義ではそのための基礎的素養を学ぶ。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を扱う際に、これらを説明し、適切に対応できる能力を身につける。	
	健康運動科学Ⅰ	運動は健康維持増進に重要な要素である。しかし、運動は心身に負荷をかけるため、方法を間違っただけでは健康を害するものに成りかねないため、スポーツを含む運動の動きの特徴や運動強度を把握することは重要である。この演習では、幾つかのスポーツを通してその動きの特徴や運動強度について解説しながら実施し、さらに、身体活動を通して日常の精神的ストレスを解消し、精神的健康を維持増進させ、スポーツを通して他者とのコミュニケーション能力を身につける。	
	健康運動科学Ⅱ	本講義では、「健康運動科学Ⅰ」で得られた原理あるいは内容が「スポーツの場面」あるいは「健康のための運動」にどう生かされていくかをさらに深めることを目的とし、合理的、科学的トレーニングにつながる方法・理論の基礎固めを行う。さらに、健康づくりのための運動について、頻度・強度・持続時間・運動の種類を規定することなどを学ぶ。また、健康に関連する体力の構成要素（全身持久力、筋力・筋持久力、柔軟性）を体育学の観点から代表的な理論やモデルを具体的に紹介し事例をあげて解説する。	
	コミュニケーション学	臨床社会心理学の立場から人間関係の基礎的問題について解説するとともに、医療や看護、保健における人間関係の問題について考える。これらをもとに、人間関係の理解と構築、問題の改善・解決のための知識やスキル、方法論等を学ぶ。	
	実験系研究者のための生物学	生物・基礎医学系実験に必要な生物学的知識を身につける。生物には、生物種に関わらず共通な代謝や、種によって異なる代謝が存在することを理解し、ある生命現象を解明するために、どのようにモデル生物を活用していくかの理解を深める。	
	生命科学研究概論	「生命科学とは」をテーマとして、生命体の成り立ちや環境適応などについての理解を深める。また、生命体の形が形成されていく背景にある生理・生化学的機構についても理解する。また、これらの現象を論理的に理解できるようになるために、分子生物学的に生命現象を解明していく手法について学修する。 (オムニバス方式／全15回) (15 花田 克浩／11回) 生命科学に関する序論、エネルギー代謝、生物種と生活環、生物と環境、適応と進化、遺伝子、発生と老化、微生物学概論、動物学概論、植物学概論、サイエンス、テクノロジー、エンジニアリングの視点。 (16 八尋 隆明／4回) 生命科学研究 方法論（計量機器・質量測定機器、pH測定機器、吸光測定機器、蛍光・発光測定機器）。	オムニバス方式
	数学Ⅰ	数学Ⅰでは線形代数学について学ぶ。線形代数は理工学を始めとした様々な分野に応用されている基礎数学の柱のひとつである。本講義ではベクトルの幾何学的イメージから始めて行列、線形空間、行列と線形変換までを説明する。これらの事柄は、線形代数の基礎であり、線形代数学全体についてさらに深く学修する。	
	数学Ⅱ	数学Ⅱでは微積分学について学ぶ。微積分学は変化量と総量の関係を定式化した学問といえる。微積分は物理や、化学、生物といった化学分野、あるいは社会科学に至るまで、様々な分野で応用されている、重要な数学の一分野である。本講義では微積分の基礎概念である、連続や収束の説明から始め、微積分の定式化、多変数関数の微積分、級数展開までを学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野科目	物理 I	高校物理から大学物理への橋渡しとして、物理量と人体や物理モデルと解析の考え方と、これを基に力学、熱力学、流体力学の基礎と人体への応用を学修する。力学では、運動の法則や力のつり合い、質点の様々な運動、力のモーメントなどについての基礎と人体運動モデルを、熱力学では、熱とエネルギーの基礎や人体における熱産生や熱放射などを、流体力学では、圧力・流れの基礎から、血圧と血液循環や肺での換気やガス交換、人工呼吸器や、圧力差を利用した点滴や胸腔ドレナージなどの医療機器について物理的な側面から学修する。	
	物理 II	本講義では、物理で波として扱う音、光、電磁気と放射線について学修する。まず音については、音とは何かや、干渉・共鳴、音の3要素、聴覚、発声、聴診器、補聴器について、次に、光については、光るとは何か、スペクトル、反射・屈折、視力、偏光、色覚、顕微鏡について、電磁気では、電流、オームの法則、電荷、電場、磁場、活動電位、その安全性について、また、波でこれ以外として、画像化、超音波や電波、磁気共鳴などについても学修する。また、放射線については、X線、 $\gamma$ 線などの基礎と医学への応用、人体への影響などについて学修する。	
	化学 I	化学は医学・医療を学ぶための基礎となり、将来、生命科学分野、医工学分野、先端領域分野で従事するための教養となるものである。授業を通して、自ら積極的に学び取る態度と自ら問題提起し真理を追究していく姿勢を養う。そうすることにより、社会的ニーズに応えることのできる問題解決型の医療関係従事者としての素養を身につける。主な講義内容は以下の通り。 1) 有効数字の取り扱い 2) 酸塩基のpH、pKa、pKbと緩衝溶液 3) 酸化還元電位と拡散電位	
	化学 II	分子の構造と化学結合について学ぶ。原子軌道および混成軌道の概念を修得することにより、化合物の立体的な構造を理解する。原子間における化学結合と、分子間における弱い相互作用を介して結びつく化学結合を基盤として、三次元的な化合物の構造と、化合物間の分子認識に関する概念を修得する。これらは、生体内におけるタンパク質と物質の間の特異的な結合を理解するうえで必要となる知識である。	
	生物 I	人間は生物の一員であり、また、人間は多種多様な生物との相互関係の中で生活している。従って、人間を理解するうえで生物学の知識を深めることは不可欠である。本講義では様々な生命現象について学び、生物学の基礎的知識と、生物学を通して人間を考える視点を身につけることを目標とする。	
	生物 II	地球上の生物はこれまでに 100万を超える種が記載され、その形や生活様式も非常にバラエティに富んでおり人間の生活に直接的あるいは間接的に関わるものも少なくない。このように多様な生物を比較して分類・整理することは生物学の基礎であり、また、生物進化の探究にもつながる。本講義では、主に動物を対象として、各分類群の体制・個体発生・生態などの生物学的知見を学び、系統分類学の視点から生物の多様性を考察する。	
	日本の古典文学を学ぶ	私達は何気なく言葉を使っている。けれども同時に言葉は文化の深い部分にも関わっている。古典文学作品を読み解くことは、作品を理解すると同時に文化を理解することでもある。 身近な古典文学である「百人一首」を丁寧に読み解くことで、時代と文化のあり方を理解すると同時に、時代を超えた日本の心を現在の時点から考える能力を身につける。	
	ドイツ文学	本講義では、まず文学とは何かを考えようとして、文学を読んでいくうえで役立つ文学理論を学び、さらに、ドイツ文学の歴史について、中世期、近代文学への胎動、ルネサンス期、ドイツ近世の特徴と啓蒙主義、古典主義及びロマン主義を学ぶことで文学作品と人間・社会との関係を学修する。	
	音楽	現代において、「音楽」は我々の生活の中で必須のものになっている。しかし「音楽」とは単純なものではなく、むしろ驚くほど多様で、深いものといえる。本講義ではこのように我々の生活と密接に関係を持ちながら、その実態を意識することの少ない「音楽」について、西洋音楽とその影響下に生まれた音楽の歴史をたどりながら様々な様態に触れ、あらためて「音楽」について考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野科目	日本近代文学	大分に縁のある作家や大分が舞台となっている文学作品（小説、短歌）を取り上げ、大分という地が作家や作品に与えた影響、作中における大分の描写、さらに大分がそれぞれの作品の中で果たしている機能について学ぶ。（文学と土地）の関係性を理解するとともに、文学が担いうる可能性について学修する。	
	自己理解のための心理臨床学入門	本講義では、人が「身体」とは別の「認知」や「心理」というところの働きについて、グループワークや演習などを取り入れながら、自分自身の体験を通じて自己理解を深めることを目的とする。患者の身体を理解するためには、血圧計やMRIなどのツールがある。しかし、患者の心を理解するための機械や道具はない。使えるものは、医療者自身というツールだけである。医療者自身というツールが高度なら、患者の心の理解も高度なものになる。自分自身が良いツールになるためには、「自己」というツールを磨くしかない。そのためには、「自己」というツールの特性を知り、感受性や識別力をあげることが必要である。本講義では、自分自身について考えたり体験したりすることを通じて、自己理解を深める。	
	大分大学入門	大学における学修の準備として、大分大学の学生が共通して身につけるべき、大学での学修方法の基礎、大分大学の歴史や教育、大学生活において求められる健康状態の維持、男女共同参画や多様性に対する認識の涵養、市民としての責任感の涵養、キャリアや人生における価値についての知識の修得を目的とする。この授業は各学部等の初年次ゼミ・演習等の科目を補完する科目でもあり、大学教育へのオリエンテーション科目と位置づけられる。	
	栄養学	健康の維持・増進や疾病の予防・治療に食事が大きく関わっている。食事を構成する食品は栄養素の供給源である。食品の特徴を知り、栄養素の働きや体内での消化・吸収・代謝を理解することによって、食と健康の関係を認識するとともに、食事を摂ることが患者にとって大切な医療行為の一端であることを認識する。	
融合人材育成科目	国際力強化科目群		
	医療英語Ⅰ	本講義では、日本医学英語検定試験4級レベルの臓器・症状・医療機器・薬などの医学英語語彙を学び、初級レベルの医療に関する英語のニュースを読む能力の涵養と、その内容を英語で的確に伝えることができる表現力の育成を目標とする。また、医療に関する英語のニュースに加えて、英語多読を行い、比較的易しい英文を100wpm以上のスピードで英語を読む訓練と英語を自発的・積極的に読む態度の育成も行う。	
	医療英語Ⅱ	本講義では、医療英語Ⅰに引き続き、日本医学英語検定試験4級レベルの疾患名を学び、中級レベルの医療に関する英語のニュースや比較的容易な医学論文のアブストラクトを読む能力を育成することを目的とする。また、医療に関する英文に加えて、英語多読を行い、英語を自発的・積極的に読む態度の育成を継続的に行いながら、比較的易しい英文を120wpm以上のスピードで英語を読み、その内容や自分の意見を英語で的確に伝えることができる表現力の育成を行う。	
	医療英会話Ⅰ	This course aims to improve students' English communication skills for medical personnel. In this course, students will learn basic medical English vocabulary and expressions frequently used in hospital settings (such as body parts, departments, signs and symptoms and medication). Students will also learn how to communicate with foreign patients in English through role plays. 本講義では、医療人として必要な英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。そのため本授業では、身体・診療科・症状・薬に関する医学英語を用いて、病院内の案内・症状や服薬状況の確認を患者さんに行うために必要な英語表現を学び、外国人患者と英語でコミュニケーションをとるスキルをロールプレイを通して育成する。	
医療英会話Ⅱ	This course aims to improve students' English communication skills for medical personnel. In this course, students will learn basic medical English vocabulary and expressions frequently used in hospital settings (such as examinations, and medical equipment, and explanation of examinations and results). Students will also learn how to communicate with co-workers as a member of a medical team in English through role plays. 本講義では、医療英会話Ⅰに引き続き、医療人として必要な英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。そのため本授業では、検査や検査機器に関する医学英語を用いて、検査の説明やその結果を患者さんに伝えるために必要な英語表現を学ぶ。また、チーム医療の一員として、医療スタッフと英語でコミュニケーションをとるスキルをロールプレイを通して育成する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合人材育成科目 国際力強化科目群	グローバルコミュニケーション I	This course focuses on the development of formal and informal communication skills required in a quickly globalizing society. It is designed to stimulate student curiosity and help participants develop critical thinking skills. A variety of themes and content from all over the world will be incorporated into the course. Class meetings build listening and speaking skills via individual and group learning activities, such as presentations and structured discussions. Students will also build strong foundations in organizing, preparing, and delivering information in a variety of contexts. このコースは、急速にグローバル化する社会で必要とされるフォーマルおよびインフォーマルなコミュニケーションスキルの開発に焦点をあてており、学生の好奇心を刺激し、参加者が批判的思考力を身につけられるように設定している。世界各国の様々なテーマや内容を取り入れており、クラスミーティングでは、プレゼンテーションやディスカッションなど、個人およびグループ学習活動を通じて、リスニングとスピーキングのスキルを教授し、様々な情報を整理、準備、伝達するための基礎を身につける。	共同
	グローバルコミュニケーション II	グローバル社会に必要な英語力の向上と国際感覚の向上のため、夏期休業などの長期休業中に大分大学国際教育推進センターが主催する協定校との海外短期語学研修を受講する。そのための情報収集と検討、計画、手続き、渡航準備、現地での生活なども指導する。海外短期語学研修により、実践的な異文化コミュニケーション能力の向上、国際理解を深めることを目指すとともに、海外生活に必要な危機管理能力を修得する。	共同
	ドイツ語 I	初級ドイツ語の文法を中心にアルファベットの発音、単語の読み方、動詞の人称変化、名詞の性・人称代名詞、前置詞の格支配等を学ぶ。さらに、母語ではない言葉を学ぶことにより、言語のもつ本質やコミュニケーション及びドイツの文化や考え方を学ぶことで、日本の文化やその在り方を相対化し反省的に考察する。	
	ドイツ語 II	ドイツ語 II では、ドイツ語 I に引き続き、初級ドイツ語文法の後半を学ぶ。後半は、完了形や受動態など「文法らしい文法学習」になる。既に学んだドイツ語知識と比べながら学ぶことで、ドイツ語文法について「大きく理解」する。 前期と同様、言語の本質やドイツ文化（および日本文化）の話題も提供し、さらに、ドイツ語初級文法を一通り学ぶことで、語学学習の方法を振り返り、新しいことの学び方について学修する。	
	中国語 I	国際社会に対応するためにはコミュニケーションの手段としての語学が必要になってくる。この授業は中国語入門の授業であり、初めて中国語を学修する学生を対象とする。「中国語 I」では、中国語入門学修には難関となる「声調」をマスターし、正しい中国語の発音ができることを目指す。発音の学修以外、簡単な語彙や文法表現を身につける。	
	中国語 II	外国語を学ぶのは、聞くこと、書くこと、話すことである。「中国語 II」の授業は、「中国語 I」を学修したうえで、さらに難しい語彙、文法を学び、一定程度の語彙及び文法をマスターしたうえで、会話の練習を行う。中国語による挨拶、自己紹介、買物などの場面を設定し、会話を学ぶ。本講義では、中国語での簡単な単語とフレーズを理解し、使用することで具体的なコミュニケーションを身につける。	
	スペイン語 I	日本人には馴染みがないと思われがちなスペイン語だが、16世紀以降の南蛮文化の普及と共に日本語の語彙の中に入り込み、日本語だと誤解している言葉もある。国際的にはスペインとラテンアメリカの20カ国で公用語となっており、また国際連合の公用語でもある。母語として使っている人口の点では英語をも上回り、正に国際的な言語と言える。本講義では、異文化理解を深めるとともにスペイン語で簡単な会話と、文章を読み書きできる能力を身につける。	
	スペイン語 II	スペイン語 II では、スペイン語 I で修得した規則活用変化動詞に加え、数種類ある不規則変化の動詞を学ぶ。スペイン語をマスターするというのは、動詞の活用をマスターすることに等しい。しかし、不規則変化の種類や数は多く重要である。英語に比べて遥かに使用頻度の高い多様な不規則変化動詞の活用を身につけることで、簡単な日常会話にとどまらず、様々なテーマの会話や文章を読み書きできるようにし、更には、国際社会の中で確固たる重要な地位を占めているこの言語を学ぶことで、異文化理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合人材育成科目	国際力強化科目群		
	ハングルⅠ	本講義では、基礎ハングルを学修し、ハングル能力検定試験初級レベルの語彙や動詞、形容詞の活用の仕組みを覚え、助詞の使い方を活用して簡単な文章を作成するとともに、日常生活でのコミュニケーション能力を修得するために、ペアでの会話練習等で発音変化の規則を理解し、ハングルで医学分野での用語をとりいれ正しい発音で会話できる能力を身につける。	
	ハングルⅡ	ハングルⅠの続きとして、学修にさらに取り組み、ハングルで日常生活でのコミュニケーション能力を向上し、医学分野で簡単な場面对応をハングルで会話できるようにする。買い物、空港、旅行、レストランなどの簡単な会話が正しく発音できるようになる。初級ハングル能力検定試験対策学修も取り入れて資格の修得と継続学修の意欲を高める。	
	海外研修	海外の大学、研究機関での研究活動に参加することにより、グローバル社会で生き抜く国際感覚や、専門知識の修得を目指す。実習先は、大学間協定、学部間協定を締結している主にタイの大学（マヒドン大学、タマサート大学、チェンマイ大学、コンケン大学、マハサラカム大学、チュラロンコン大学医学部、チュラロンコン大学理学部）において実習を行う。海外研修を通じ、コミュニケーション能力の向上、海外での研究力の向上、異文化での経験を通じ国際的視野を広げることを目的とする。	
未来創造キャリア・デザイン科目群	海外インターンシップ	これまで修得した生命健康科学および、医工学関連分野の知識が社会の現場でどのように実装されているか、現場で学ぶとともに、グローバル社会で生き抜く国際感覚や、専門知識の修得、語学力の向上を目指す。実習先は、本人の希望を元に大分大学バンコクオフィスとも連携して選定する。海外インターンシップにより、コミュニケーション能力の向上、インターンシップ内容の理解と実行、異文化での経験を通じ国際的視野を広げることを目的とする。	
	アントレプレナーシップ	様々な分野の第一線で活躍される起業家を招き、セミナーを開催する。招聘の対象となるゲスト講師の折衝、および、セミナーの内容策定は、担当講師のガイダンスのもと学生有志が行う。講演参加者一人ひとりが積極的に議論に参加してインタラクティブなセミナーを実施する。起業にまつわるリアルなエピソードを当事者から直接聞くことによって、広義のアントレプレナーシップ・マインドにおける意識変容を喚起することを学修目標とする。講義の後半では、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学修も行い、学生自身で意見をまとめてプレゼンテーションにて具象化する。	共同
	規格及び知財管理学	生命科学/医工学研究、医療技術者、医療関連ビジネスに従事する人材として、医療機器等に関わる制度や規則の在り方を理解することは極めて重要である。国際化した現在では、医療機器、医療技術の国際標準化が急速に進んできている。本講義では医療器具、医療技術の国際標準化、それらを扱う国際機関に関する知識ならびに、知的財産と契約の知識を身につける。 (オムニバス方式/全8回) (④ 友 雅司/3回) 規格と標準化、国際標準化と主要国際標準化機関の概要、医療機器等研究・開発・承認の国際調整。 (54 松下 幸之助/5回) 大学における研究開発ステップと企業における商品開発ステップ、知的財産とは、知的財産権法の全体像、契約書の種類とその位置づけNDA、MTA、DTA、共同研究契約など。	オムニバス方式
機能デザイン工学	人間の生活活動に沿った新しい機能を持つ人工物の開発や、加齢や疾病によって失われたり衰えた運動、感覚機能の回復や、現存能力の支援・増強を行う機器、機械、ロボットの開発を行う分野である。また、デザインシンキングの手法を用いて、課題抽出、解決策提案、試作、検証を行い製品化する方法や実社会で実践することができる手法を学修する。		



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合人材育成科目	未来創造キャリア・デザイン科目群 ベンチャー起業論	医療分野における新規技術やサービスを基に、その知見を事業化へと導くために必要な知識を学修する。医療・バイオ業界は他の分野とは異なり、薬機法や化審法などによる規制が多く存在するため、それらについての理解を深める。最終的にビジネスプランを作成し、発表することで、企画力やプレゼン能力を身につける。  (オムニバス方式／全8回) (3 大崎 美泉／1回) 経営学概論。 (15 花田 克浩／4回) 生命科学業域の事業展開、関連法規、規制など、ベンチャー起業に関して我が国の課題、創薬研究とベンチャー起業論。 (26 上村 尚人／1回) バイオテクノロジー系ベンチャー起業。 (3 大崎 美泉・15 花田 克浩・26 上村 尚人／2回) (共同) 事業計画のプレゼン、討論会、総括。	オムニバス方式・共同 (一部)
	医療科学キャリアパス	医療系およびマネジメント等、幅広く先進的かつ融合領域の知識を活かしたキャリアパスとして、現在さまざまな職種で活躍している方々を招き、卒業後のキャリアパスの広がり意識できるように、アカデミアのみならず起業家、研究者等多様な働き方の可能性を学ぶ。	
	レギュラトリーサイエンス	レギュラトリーサイエンスは、人々の健康を守るための医薬品や医療機器など新たな技術を多様な観点から調整する評価科学という役割と、健康に関するシステムや公共政策などに科学的根拠を与える規制科学という役割を併せ持つ。本講義では、各種の規制がどのような背景から生まれ、どのように機能しているかを学修する。	共同
	医工連携・技術開発論	医工連携・産学官連携の本質を探究し、融合人材として業種の垣根を越えた分野横断的橋渡しができる人材の必要性を理解する。技術開発、医療機器開発の概観、ニーズ・シーズマッチングから製品化に至るまでのプロセスと、障壁、課題を学修し、医療従事者、工学者、行政、企業研究者などと対話ができる。異業種、異分野の研究者と対話の中で共通の目標を見出し、新たな「もの」を創出するまでの手法を学修する。	
先進領域融合科目群	医療情報システム論	情報科学の基礎として、情報、確率論とその応用、基本分布、資料の整理、標本分布、推定論および検定論の講義を行う。また、エクセルを用いたデータ整理の授業も行う。さらに、医療情報の基礎として、セキュリティや医療現場で使われる情報システムについても学修する。  (オムニバス方式／全15回) (41 谷川 雅人／11回) 確率の応用、二項分布、標本分布 I、正規分布、相関係数、点推定、区間推定、まとめ。 (9 安徳 恭彰／4回) 情報科学とは、情報セキュリティ、医療現場における情報セキュリティ、医療と情報システム。	オムニバス方式  講義22時間 演習 8時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合人材育成科目 先進領域融合科目群	ゲノム再生医療学	<p>医療のパラダイム変化をもたらしつつあるゲノム医療、再生医療について、ゲノムに関する基礎的事項、再生医療に用いられるiPS細胞などを含めた基礎的事項、各種疾患におけるゲノム医療に関する臨床的事項および再生医療について、最新のエビデンスに基づき学び、ゲノム医療と再生医療の全体像について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 田仲 和宏／3回) がんゲノム異常と治療、骨軟部腫瘍のゲノム医療、総まとめと小テスト総括、症例検討、課題。 (83 大津 智／2回) がんゲノム医療の臨床、臓器横断的ゲノム医療。 (23 猪股 雅史／1回) 消化器がんのゲノム医療。 (62 小副川 敦／1回) 肺がんのゲノム医療。 (37 末延 聡一／1回) 小児がんのゲノム医療。 (9 井原 健二／1回) 遺伝性疾患とゲノム医療。 (105 織田 信弥／1回) バイオバンクの構築とゲノム医療。 (113 妻木 範行／1回) iPS細胞を用いた再生医療。 (36 秦 聡孝／1回) 泌尿器科疾患の再生医療。 (46 波多野 豊／1回) 皮膚疾患の再生医療。 (114 中山 功一／1回) 神経・血管の再生医療。 (36 秦 聡孝・93 河野 正典／1回) (共同) 再生医療としての移植治療。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	グローバルヘルス・セキュリティ	<p>公衆衛生学の役割はグローバルヘルスの視点から様々な新たな課題に直面し、拡大している。新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大、気候変動にもなう大規模な災害発生、社会的格差がもたらす健康への影響など、健康危機管理の再構築が求められている。本授業科目では公衆衛生学(疫学を含む)の基本的な知識と技術を修得し、世界で起きている新たな健康課題に対してどのように組織的・科学的に対応すべきか解決できる能力を涵養する。</p>	
	医療データ解析・活用論	<p>医学におけるEvidence Based Medicine (EBM)の実践には大量の診断・診療データ(ビッグデータ)の有効な解析・活用が必須である。疫学研究のみならず、DPC(診断群分類別包括評価)を用いた解析も可能となっている。本講義では、従来の疫学研究手法にくわえて、DPCデータ等の解析法等も含めた医療データの解析・活用法について学ぶ。</p>	
	人工知能基礎	<p>計算機に知的な振る舞いをさせるために必要な基礎技術全般を扱う。まず人工知能の歴史を押さえ、これまでの研究の経緯や大まかな流れを把握する。</p> <p>そのうえで、基本的な要素技術として、状態空間の探索、知識表現と知識処理、推論、学修などの概要を学ぶ。特に推論においては、基本的な確率の考え方を復習したのち、ベイズ確率とベイズ推論、マルコフ過程や確率生成モデルの応用として状態推定について学ぶ。さらに、機械学習分野を概観したうえで深層学習の基礎を学ぶ。</p>	
	医療とAI	<p>人工知能(AI)の進歩は目覚ましく、医学・医療においてもAIの活用が期待されている。医療AIの活用が期待されるポイントとしては、「医療の質の向上」「医療データの収集と活用」「医療の管理業務の効率化」等があげられる。本講義においては、「医療の質の向上」の例としての「内視鏡画像のAIによる判定」についての講義をはじめ、「従来の統計学的解析とは異なる、AIによる医療データ解析(複雑系)」等についても解説し、演習も含めて学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(9 安德 恭彰／7回) 画像解析演習(導入、利用方法、サンプルデータによる学修、グループ演習)。 (45 畑中 裕司／4回) 人工知能(AI)の進歩、AIの種類、AI解析の検証、AI解析の落とし穴。 (59 衛藤 剛／4回) 医療におけるAI、AIと内視鏡画像診断、AIと内視鏡外科手術、AIと医療の未来。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合人材育成科目 先進領域融合科目群	ゲノム解析学	<p>近年、分子生物学的解析技術の発展により、疾病に起因する遺伝子を検出する遺伝子検査が多くなってきた。主に、感染症における病原体核酸、体細胞系列の遺伝子変異、生殖細胞系列の遺伝子変異に対する検査として大きく3つに区分される。これらの遺伝子・染色体検査を理解するために、遺伝子・染色体・ゲノムの概念と基礎知識や各種分析法の理論と方法を修得し、疾患との関連性についても学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 八尋 隆明/10回) 遺伝子の基礎(細胞の構造と機能、ゲノム・遺伝子)、遺伝子異常と疾患、遺伝子・ゲノムの解析法(サザンブロット、PCR、リアルタイムPCR、デジタルPCR、LAMP、TMC、ノザンブロット、シーケンス解析、マイクロサテライト解析、DNAマイクロアレイ、次世代シーケンス)、遺伝子・ゲノムの解析(核酸抽出、PCR反応、電気泳動法、解析法、リアルタイムPCR反応、解析法、DNAシーケンス解析法)。</p> <p>(15 花田 克浩/5回) 染色体の基礎、染色体異常と疾患、染色体の解析法。</p>	オムニバス方式 講義22時間 演習 8時間
	クリニカルオンコロジー	<p>様々な悪性腫瘍(がん)について、発がん機構を含む基礎的事項、診断、治療、予後因子等の臨床的事項について、最新のエビデンスと臨床経験に基づき学び、がんの全体像について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 田仲 和宏/3回) 悪性腫瘍の発がん機構、骨軟部腫瘍、総まとめと小テスト総括、症例検討、課題。</p> <p>(23 猪股 雅史/2回) 消化器がん、肝胆膵がん。</p> <p>(62 小副川 敦/1回) 肺がん。</p> <p>(108 枝園 忠彦/1回) 乳がん。</p> <p>(36 秦 聡孝/1回) 泌尿器がん。</p> <p>(67 河野 康志/1回) 婦人科がん。</p> <p>(81 渡邊 哲生/1回) 頭頸部がん。</p> <p>(27 緒方 正男/1回) 造血器腫瘍。</p> <p>(83 大津 智/1回) 原発不明がん。</p> <p>(37 末延 聡一/1回) 小児がん。</p> <p>(94 久保 毅/1回) 脳腫瘍。</p> <p>(46 波多野 豊/1回) 皮膚腫瘍。</p>	オムニバス方式
	ワンヘルスサイエンス	<p>グローバル化や地球温暖化による新興・再興感染症の脅威に対応するために、感染症が人のみならず動物・環境と共にあるという「ワンヘルス」の概念を理解する。ワンヘルスに関わる多くの感染症が人と動物の共通感染症であることから、動物、人および生態系に関する基本的な衛生概念に加え、ワクチンや疾病制御法さらに動物、人および生態系の健康を俯瞰的に捉えることを目的とする。</p>	共同
	人工臓器学(運動器系)	<p>運動器に関連する人工臓器、即ち人工関節について、骨・軟骨など関節の構造、関節を動かすための筋肉や神経の働きを含む基礎的事項、人工関節の材料、臨床バイオメカニクス、各関節の特徴的な人工関節、腫瘍用人工関節などの臨床的事項について、最新のエビデンスと臨床経験に基づき学び、人工関節の全体像について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 田仲 和宏/5回) 運動器の特徴、代表的運動器疾患、腫瘍用人工関節、人工関節手術の合併症、総まとめと小テスト総括、症例検討、課題。</p> <p>(19 加来 信広/3回) 人工関節の材料、運動器疾患のバイオメカニクス、人工股関節。</p> <p>(100 平川 雅士/4回) 人工肩関節及び人工肘関節、人工膝関節、人工足関節。</p> <p>(86 宮崎 正志/1回) 脊椎インスツルメンツ</p> <p>(92 金崎 彰三/1回) 骨折手術のインプラント</p> <p>(93 河野 正典/1回) 人工関節と生物学的再建法</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
融合人材育成科目	先進領域融合科目群	人工臓器学(感覚器系)	人工臓器において感覚器系の領域も生体機能代行として重要であり、特にQuality of lifeの向上が医療・医学における目標となった現在では、その価値は循環器系、呼吸器系、代謝系の生体機能代行装置と比肩する。 感覚器障害の治療戦略としては、幹細胞移植や遺伝子導入による再生医療と失われた感覚器の機能を機械で代行する人工感覚器の二つがある。本講義科目においては、人工感覚器に関する基礎研究と人工感覚器の臨床応用例として人工中耳、人工内耳について学び、人工感覚器の現状と展望について理解する。  (オムニバス方式/全8回)  (91 門脇 嘉宣/4回) 人工中耳 (52 古家 賢一/1回) 人工感覚器 聴覚の基礎 (29 菊池 武士/1回) 人工感覚器 触覚の基礎 (89 賀川 経夫/1回) 人工感覚器 視覚の基礎 (21 井上 高教/1回) 人工感覚器 嗅覚の基礎	オムニバス方式
	人工臓器学(広領域)	人工臓器学における「広領域」とは、人工臓器そのものではないが、それらを支えるための技術、それらを評価する技術、また生体組織と人工臓器(人工素材)の融合したハイブリッド型人工臓器、バイオチューブ等の多岐にわたり、まさしく広領域の学問である。これらの分野は人工臓器または人工臓器の研究開発を下支えする極めて重要な領域であり、人工臓器学には不可欠・必須のものである。本講義では、人工臓器学において基礎となる人工臓器学(広領域)について学修する。  (オムニバス方式/全15回)  (④ 友 雅司/11回) オリエンテーション、人工臓器の生体適合性、生体適合性評価系、生体適合性改善の方策、人工臓器、人工腎臓における製品生成工程の設計、人工臓器治療環境の整備、Validation、パラメトリック法、ハイブリッド人工臓器、在宅人工臓器医療における現状と課題(人工腎臓)、総括 (① 穴井 博文/4回) 3D-プリンターと人工臓器、バイオチューブ、血液レオロジー、在宅人工臓器医療における現状と課題(補助人工心臓)	オムニバス方式	
	医学・生命科学ビッグデータAI解析技術論	近年、医学・生命科学における情報工学の活用は不可欠となっている。特に人工知能(AI)・ビッグデータの解析技術の履修は、生命医科学、工学研究において必須と考えられる。 本講義では、実際のデータを用いた「ビッグデータの解析手法」について、従来の統計解析およびAIによる解析の差異等を含めて学修する。また、生命科学領域においてはビッグデータの一つとも考えられる「化合物データバンクの活用法」及び「情報工学統合計算科学プラットフォーム等を用いた化合物の立体構造解析、分子モデリング、タンパク質モデリング」等を学ぶと共に、取り扱うゲノムやビッグデータに対する人間の尊重及び人権を尊重し、適正に研究を実施するための生命倫理について涵養する。	共同	
医療マネジメント科目群	関係法規	医療の発展や国の政策等(ゲノム医療、チーム医療、在宅医療など)により、臨床検査技師や臨床工学技士を取り巻く環境は大きく変化しつつある。本授業では、医療に関連する法律を知り、臨床検査技師および臨床工学技士の業務を理解する。 臨床検査技師・臨床工学技士の実務に必要な法的知識を修得することを目的とする。臨床検査技師・臨床工学技士ならびに医療関係職種(医師)の法律を学び、業務を適正に運用できるように規律し、多職種と連携して医療の普及と向上に寄与することを理解する。臨床検査技師・臨床工学技士の責任範囲を学び、チーム医療で適切な行動がとれるよう関連領域の法の知識を養う。  (オムニバス方式/全10回)  (4 加藤 優子/6回) 臨床検査技師等に関する法律、薬事法規、保健衛生法規、予防衛生法規、環境衛生法規、労働衛生法規、社会保障・福祉関連法規。 (⑥ 道越 淳一/4回) 臨床工学技士法令、業務指針、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律、医療機関等における医療機器の立ち合いに関する基準、製造物責任法(PL法)と臨床工学技士、医事法規(医療法:医師、保健師助産師看護師法等)。	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合人材育成科目	医療マネジメント科目群		
	医療マネジメント論	近年、経済学の観点から医療を考察する医療経済学とは異なって、経営学の観点から医療を考える医療経営学が注目を集めている。本講義は、医療のマクロ的側面をマネジメントの視点から考察するが、単に効率性の観点から医療の仕組みや医療制度改革を論じるだけでなく、その社会的責任についても併せて考えていく。これらを理解することで、病院を取り巻く医療環境の現状や問題点について説明できる能力を修得する。	
	地域医療政策論	住み慣れた地域での自立生活を包括的に支援する「地域包括ケアシステム」の枠組みと専門職としての実践のあり方を理解することを目的とする。地域包括ケアの概念や関連する制度、地域包括ケアにおける多職種連携、地域包括ケアの実践について学修する。医療と福祉の連携に着目しつつ、地域包括ケアにおいてそれぞれの専門性をどう発揮するかを考える授業を行う。	
	メディカルリスクマネジメント論	安全・安心な医療の提供は、最も基本的な事項である。メディカルリスクマネジメントには、様々なエラーから生じる医療事故を防止する医療安全管理と院内感染を抑制する感染制御があることを理解する。各論として、医療安全管理を進めていく方策を講義し、医療機関等でのエラーの防止策について理解することを目的とする。また感染制御においても標準予防策や感染経路別予防策を理解し、実践できる能力を修得する。	
	病院マネジメント論	病院を取り巻く医療環境について考察した「医療マネジメント論」に続き、本講義では、医療の実質的担い手である病院のマネジメントについて、人事、会計、マーケティング、経営戦略、経営分析といった観点から考察するとともに、BSCやDPCデータの活用、クライシス・マネジメントといった新しい論点についても検討する。これらを学修することで、病院経営の今と将来の展望について説明できる能力を修得する。  (オムニバス方式／全15回)  (3 大崎 美泉／13回) 医療マネジメントと病院マネジメント、外部環境の変化と病院マネジメント、組織のマネジメント、人材マネジメント、マーケティング・マネジメント、病院会計準則と財務会計、設備投資とファイナンス、病院の原価計算、病院の管理会計と経営分析、病院の経営戦略、BSCの導入、病院のガバナンスとコンプライアンス、病院とICT、DPCデータの活用。  (⑥ 道越 淳一／2回) 医療安全と病院施設・設備・システムの安全マネジメント、リスク・マネジメントとクライシス・マネジメント（感染対策、災害対策と事業継続）。	オムニバス方式
専門科目	コース共通専門分野		
	解剖学	本講義では、正常なからだの構造・機能の理解が必須となる。本科目は、からだの構造と機能を生命活動との繋がりの中で修得することをねらいとする。からだの構造と機能は有機的に関連し不可分であることから、本科目及び解剖学実習は、人間の生命活動に関する知識体系を学ぶ科目として位置づけ、本講義では人間の生命活動に関する知識体系の総論として、ホメオスタシス・細胞・組織・外皮系・心血管系・血液・免疫系の詳細、感覚器系・神経系・内分泌系の概要について学修する。本科目の受講を通して、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、医療科学を学問的に探究していくための礎を築いていくこともねらいとしている。	
	解剖学実習	本講義では、解剖学の知識を基盤に、医療に活かせる人間の生命活動に関する知識体系の各論として、感覚器系・神経系・内分泌系の詳細、呼吸器系・消化器系・腎泌尿器系・筋骨格系・生殖器系について、解剖体の見学実習を実施しながら学修する。本科目の受講を通して、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、医療科学を学問的に探究していくための基礎的な能力を身につける。	
	看護学概説	本講義では、保健・医療・福祉の場で連携・協働する看護専門職の学問的基盤である看護学の全般に関わる基本概念や科学的基盤、保健医療福祉の動向にたった社会における看護について概説し、それぞれの専門職に活かすことを目的とする。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース共通専門分野	生命ホメオスタシス学Ⅰ	<p>身体の正常な仕組みと機能をしっかり理解したうえで、疾患に対する病態知識・認識を持ち、患者と向き合うことが必須である。本講義では、生体における生命現象と恒常性維持のメカニズムを修得し、ヒトの身体機能について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 花田 礼子・99 寺西 仁志/1回) (共同) 生理学総論、細胞の伝導と興奮。 (① 花田 礼子・96 鹿野 健史朗/1回) (共同) 神経系と運動機能、神経伝達物質。 (99 寺西 仁志・96 鹿野 健史朗/2回) (共同) 自律神経系、本能行動。 (③ 手嶋 泰之・① 花田 礼子/1回) (共同) 連合機能。 (95 衆 慎一郎/2回) 栄養の消化と吸収、内分泌系・生殖器官系。 (69 黒川 竜紀/3回) 呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節、体液の調節と尿の生成。 (① 花田 礼子・99 寺西 仁志・96 鹿野 健史朗・③ 手嶋 泰之・95 衆 慎一郎・69 黒川 竜紀/5回) (共同) 生理学演習、まとめ。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義20時間 演習10時間
	生命ホメオスタシス学Ⅱ	<p>人体を理解するうえで必要な生理機能を疾患と結びつけて学修し、生理機能情報を収集するための理論と実際について理解を深める。各領域の主要疾患について、疾患概念、病因、病態生理と症候(症状と身体所見)、検査所見、治療原則を人体の生理機能と関連付けて理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(22 井上 亮/6回) 脳神経領域の生理学、内科系疾病の生理学、外科系疾病の生理学、感覚器疾病の生理学。 (80 幸松 美智子/2回) 生理学の知識をアセスメントに活かす、小児母性領域の生理学と応用。</p>	オムニバス方式
	イムノメタボリズム学Ⅰ	<p>ヒト生体の正常なしくみや機能、あるいはその破綻した状態である病気を分子レベルで理解し疾病に関する生化学、分子生物学、遺伝学の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(47 花田 俊勝/7回) 生化学を学ぶための基礎知識、代謝の基礎と酵素・補酵素、脂質の構造と機能・脂質代謝、タンパク質の構造と機能・タンパク質代謝、ポリフィリン代謝と異物代謝。 (72 白石 裕士/1回) 糖質の構造と機能。 (97 清水 誠之/1回) 糖質代謝。 (77 松尾 哲孝/6回) 遺伝子と核酸、遺伝子の複製・修復・組換え、転写、翻訳と翻訳後修飾、シグナル伝達、がん。</p>	オムニバス方式
	イムノメタボリズム学Ⅱ	<p>免疫系の機構を細胞レベルおよび分子レベルで理解し、病原体に対する免疫反応、先天性および後天性免疫不全症候群(acquired immune deficiency syndrome : AIDS)、主な自己免疫疾患とアレルギー疾患、さらに、がん細胞に対する免疫系の反応を理解する。</p>	
	組織学	<p>ミクロ的視点(組織・細胞レベル)から、血液・造血器・リンパ系、神経系、外皮系、運動器系、循環器(心血管)系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、視覚器系、平衡聴覚器系の正常構造と機能を学ぶ。 組織写真(主に光学顕微鏡レベル)の観察から、各器官が同定できるようになる能力を身につける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース共通専門分野	臨床病態学（内科）	<p>臓器の解剖学的構造と生理学的機能を関連づけ、各種疾患の病態生理、検査・診断方法、治療法、予後について学修する。医療チームの一員として従事するうえで必要な臨床医学の知識を身につける。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（56 吉岩 あおい／5回） 症候論（疼痛、出血、意識障害、動悸、呼吸困難、発熱、食欲不振、浮腫、口渇）、遺伝（遺伝のしくみ、メンデル遺伝、多因子遺伝、遺伝カウンセリング）</p> <p>⑮ 小宮 幸作／3回 呼吸器（気道感染症、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、好酸菌症、間質性肺疾患）</p> <p>（61 沖本 忠義／3回） 消化器（消化性潰瘍、総胆管結石、黄疸、潰瘍性大腸炎、クローン病）</p> <p>③ 手嶋 泰之／2回 循環器（病態、症候、検査、治療、虚血性心疾患、心不全、血圧異常）</p> <p>⑩ 高橋 尚彦／1回 循環器（不整脈、心臓弁膜症、その他）</p> <p>（27 緒方 正男／3回） 血液（貧血、造血器腫瘍、凝固異常、出血傾向）</p> <p>（51 平松 和史／3回） 感染症（微生物と免疫応答、診断法と抗菌薬療法、敗血症、日和見感染症、耐性菌感染症、感染制御）</p> <p>（35 柴田 洋孝／10回） 腎（症候と検査、原発性、続発性腎疾患、腎不全、透析）、内分泌・代謝（視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、糖尿病の診断と病態、糖尿病の治療、肥満、高尿酸血症）、免疫・アレルギー（免疫、アレルギー、リウマチ、膠原病）</p>	オムニバス方式
	臨床病態学（外科）	<p>運動器に関連する人工臓器、即ち人工関節について、骨・軟骨など関節の構造、関節を動かすための筋肉や神経の働きを含む基礎的事項、人工関節の材料、臨床バイオメカニクス、各関節の特徴的な人工関節、腫瘍用人工関節などの臨床的事項について、最新のエビデンスと臨床経験に基づき学び、人工関節の全体像について理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（6 田仲 和宏／3回） 外科的治療概論、運動器外科、総まとめと小テスト総括、症例検討、課題。</p> <p>（23 猪股 雅史／3回） 上部消化器外科、下部消化器外科、肝胆膵外科。</p> <p>（62 小副川 敦／1回） 呼吸器外科。</p> <p>（36 秦 聡孝／1回） 泌尿器外科。</p> <p>（67 河野 康志／1回） 生殖器外科。</p> <p>（81 渡邊 哲生／1回） 頭頸部外科。</p> <p>① 穴井 博文／1回） 心臓血管外科。</p> <p>（94 久保 毅／1回） 脳神経外科。</p> <p>（68 木許 賢一／1回） 感覚器外科。</p> <p>（46 波多野 豊／1回） 皮膚外科。</p> <p>（84 清水 史明／1回） 形成外科。</p>	オムニバス方式
	臨床病態学（麻酔・救急）	<p>医療では予測できない事象が必ず発生する（医療の不確実性）。中でも患者急変時の対応能力は医療者に必須である。ここでは、先進医療を安全に実施するために必要な麻酔・救急医学領域の能力修得を行う。麻酔は患者の意識及び痛みを取り除くだけでなく、呼吸・循環等の全身管理と患者急変時対応能力が重要であり、麻酔方法を含めた全身管理を学ぶ。救急では、心肺蘇生法、外傷、中毒、災害医療だけでなく患者救命のための全身管理を学ぶ。この領域では先進医療として多くの機器が導入されており、麻酔・救急関連領域の先進医療も学ぶ。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース共通専門分野	臨床病理学 I	<p>病理学は、病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする。疾患の理解には組織、分子レベルでどのような変化が生じているかを理解することが重要である。病理学総論においては、疾患を理解するうえで共通となる概念について学修する。病理学各論においては、総論の理解を踏まえ、各臓器における具体的な疾患を学び、それぞれの病態を理解する。さらに症例検討の中で病理学総論・病理学各論で学んだ知識を応用して病態生理を組み立て、疾患をその基盤となる組織・細胞・分子レベルで説明できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 内田 智久／7回) 病理学 (イントロダクション)、病理学総論 (遺伝性疾患および小児の疾患)、病理学各論 (口腔・消化器、肝臓・胆嚢・胆管)、症例から病態を学ぶ。</p> <p>(75 泥谷 直樹／5回) 病理学総論 (細胞障害、細胞死と適応、循環障害、感染症、免疫系疾患)、病理学各論 (臓器)</p> <p>(98 塚本 善之／3回) 病理学総論 (急性および慢性炎症、組織の修復、腫瘍)</p>	オムニバス方式
	微生物学	<p>衛生環境の改善や食生活の向上、世界一アクセスの良い医療の元で、我が国は例を見ない高齢化を迎えている。その中であって感染症の脅威は、高齢者・免疫学的弱者における院内感染や日和見感染などの問題が現在の我が国の感染症医療の中心となってきた。一方で、新型コロナウイルス感染症、エボラ出血熱やデング熱の流行、マラリアや結核のまん延などの新興・再興感染症の出現は、グローバルな脅威を人類に与えている。このため細菌やウイルスなどの微生物という生命体の本質を理解したうえで、その病原性と引き起こされる感染病態を理解し、病原体に対する生体応答、特に免疫反応を理解することが重要である。と同時にそれらをエビデンスとして、臨床現場で感染管理・感染制御に必要な技術を、明確な根拠を持って感染症医療を学ぶ必要がある。また滅菌・消毒、ワクチンなど感染予防方法の諸原理を理解し、臨床応用できる能力の基礎を形成する。</p>	共同
	画像診断学	<p>単純X線撮影やCT、核医学などの放射線を用いた検査法以外に、超音波検査や磁気共鳴検査 (MRI) といった放射線を用いない画像検査も含まれており、多くの画像検査が診断や治療へ応答されている。病態把握に必須とされ、診療側の期待が高い各種画像検査について、測定原理・検査の実際・正常および異常画像の評価などについて学修する。また、他の検査結果と総合的に判断できるよう理解を深める。</p>	
	医用工学	<p>現代の医療関連業務においては、物理学、電気工学、情報工学、細胞工学などの工学的な知識が必要不可欠となっている。医療機器にかかわる工学的な知識の習熟とともに医療機器操作を行うための正しい知識の習熟を目標とする。それに加え、現在の医学を取り巻く工学的な研究方法を知り、機器の操作管理だけでなく機器創出における知識的な土台づくりを行う。そのために、講義直後には学生間のグループディスカッションを通じて、講義の内容に基づいて、医学分野における工学のあり方を議論し、医療工学分野での課題発見に対する能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(② 兒玉 雅明／2回) 生体計測法とその特性、ネットワークとハードウェア。</p> <p>(⑦ 梅田 涼平／13回) 生体機能・構造と生体の物理特性、医用電極と生体に使用される医用電子技術、音を用いた計測機器と治療機器、光を用いた計測機器と治療機器、医用工学とそれを取り巻く環境、人工臓器とバイオメカニクス、生体において、工学的技術を安全に使用するために、臨床におけるシステム工学と情報工学、システム工学とシステムとしての生体、システムの制御と特性、生体内の機構とその制御、情報機器とその利用、まとめ。</p>	オムニバス方式



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース共通 専門分野	医用機器学	<p>現在の医療においては、科学技術の発展とともに数多くの医用機器が用いられるようになった。各分野の疾患における検査、診断、治療にとって臨床現場、医療施設、在宅などでの医用機器取り扱いの知識・技術は重要なものになっている。循環器外科領域における人工心肺装置、心補助循環装置、心ペースメーカー、また人工呼吸器、人工透析装置、心・血管カテーテルをはじめ、内視鏡診断・治療装置、輸液装置等、医用機器の安全で適切な運用には、これらの医用機器に関連した病態の理解、また医用機器の原理、仕組み、扱い方、安全管理への理解が不可欠である。本科目において、多岐にわたる医用機器の基本原理と運用、臨床支援に必要な実践的知識・技術また医用機器と関連する病態が理解できることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 穴井 博文/5回) 治療機器概論、電気的治療機器、機械的治療機器、手術用機器、在宅医療用機器、循環器系疾患における医用機器学。</p> <p>(⑥ 道越 淳一/5回) 医用機器概論、生体計測、監視用機器、生体機能代行装置、医用機器の保守管理、呼吸器疾患における医用機器、人工腎臓治療での医用機器。</p> <p>(② 兒玉 雅明/5回) 臨床支援技術、内視鏡診断・治療における医用機器学、医用機器、症例演習。</p>	オムニバス方式
	病態薬理学	<p>薬力学・薬物動態学などの薬理学的知識を習得する。さらに、主な疾患の成因・病態、薬による治療効果、用いる薬の作用(主作用・副作用)機序と副作用を理解し、各薬物の効果的な使用方法(与薬方法)について説明できることを目標とする。</p>	
	生体計測装置学	<p>生体計測の仕組みと測定原理、機器・システムの構成について説明する。個々の装置の特性を解説し、実際の測定、データの意義についても概説する。臨床検査技師、臨床工学技士として必要な医用生体計測装置の種類、原理、臨床的意義・特性と適応、取り扱い運用方法、保守点検方法について講義・演習を演習を通して理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦ 梅田 涼平/1回) 生体計測の基礎(計測論、機器の基本構成、センサ・トランスデューサ、生体情報の計測)。</p> <p>(11 文室 知之/3回) 生体電気計測(脳波計、筋電計、誘発電位測定装置)、画像診断装置(核磁気共鳴画像装置)。</p> <p>(③ 手嶋 泰之/3回) 生体電気計測(心電計、心電図モニター装置、医用テレメータ)、生体の物理・化学現象計測(血圧計、血流計測、心拍出量計測)。</p> <p>(⑥ 道越 淳一/2回) 生体の物理・化学現象計測(呼吸計測、呼吸ガス分析)、生体の物理・化学現象計測(体温計、熱画像装置)。</p> <p>(16 松本 重清/1回) 生体の物理・化学現象計測(血液ガス分析装置、パルスオキシメータ)。</p> <p>(⑧ 浅山 良樹/1回) 画像診断装置(X線画像装置、CT装置)。</p> <p>(② 兒玉 雅明/2回) 画像診断装置(核医学検査装置、内視鏡検査装置)。</p> <p>(① 穴井 博文/1回) 画像診断装置(超音波検査装置)。</p> <p>(⑨ 井原 健二/1回) 在宅医療で用いられる生体計測機器。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コース共通専門分野	臨床支援技術学 <p>医療施設や在宅医療などで用いられる計測機器・治療機器の進歩は目覚ましく、それらを用いた臨床支援の分野も飛躍的に拡充してきている。本講義では、これらの臨床支援に用いられる機器の原理・構造・構成を工学的に理解し、その適正かつ安全な使用方法や保守管理に関する知識・技術を修得する。臨床支援が必要とされる症例の病態や検査・治療法の実際、手技について理解し、医療機器を用いた幅広い分野における臨床支援に必要な実践的知識・技術を講義・演習を通して修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 穴井 博文／4回) 臨床支援技術(手術室)、在宅療法における臨床支援技術、まとめ。 (⑥ 道越 淳一／1回) 臨床支援技術が必要となる臨床的な病態と治療法。 (② 兒玉 雅明／4回) 臨床支援技術(内視鏡治療・検査関連機器、内視鏡による外科的治療関連機器、内視鏡治療・検査の手技)、治療機器を用いた臨床支援技術。 (③ 手嶋 泰之／5回) 臨床支援技術(心・血管カテーテル関連機器、心・血管カテーテル治療・検査の手技、除細動装置、AED等、埋め込み型デバイス)、計測機器を用いた臨床支援技術。 (⑦ 梅田 涼平／1回) 臨床支援技術と医工学の基礎。</p>	オムニバス方式
	多職種連携演習	<p>医学部先進医療科学科・医学科・看護学科および福祉健康科学部(理学療法コース、社会福祉実践コース、心理学コース)によるチーム編成を行い、医師、看護師、保健師、臨床工学技士、臨床検査技師、理学療法士、社会福祉士、心理師による複合要因を内包した症例に対して他職種による症例検討、共同連携の実践を学ぶ。医療・福祉においては1専門領域のみでは解決できず、実際の臨床を想定した実践的連携対応を学ぶ。</p> <p>座学で学んだ知識が他職種の共同介入が必要な実際の現場でどのように役立つかを学修し、グループ討議により課題解決に必要な専門職間の連携と医療と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力、医学・医療・福祉に携わる人間として強い責任感と高い倫理観を涵養することを目的とする。</p> <p>実践的な症例から、自己の課題を抽出し、他職種と連携した解決策を見いだす能力を身につける。</p>	
生命健康科学コース専門分野	臨床検査の基礎と疾病との関連	<p>医学、医療、臨床検査の概要を学ぶと共に疾病との関連を理解する科目である。健康の概念から、医学の歴史、医学倫理、進歩する医療技術、先端医療、高齢化社会、緩和医療、チーム医療などの医学概論を学修し、医療人として基盤となるべき考え方、知識を身につけることを目標とする。さらに、疾病との関わりを理解するために「微生物と疾病の関連」「栄養と疾病の関連」「認知症に関する基礎知識(原因・中核症状・BPSD(行動・心理症状)・検査方法・診断・治療・予防など)」を学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(66 加隈 哲也／6回) 医学概論、微生物と疾病の関連、栄養と疾病の関連。 (56 吉岩 あおい／2回) 認知症に関する基礎知識。</p>	オムニバス方式
	生命ホメオスタシス学Ⅲ	<p>本講義では、臨床検査の一つである生理機能検査について学ぶ。生体の機能の仕組みと生命現象を理解するため、基本的な体部位の名称や正常機能だけでなく、各種疾患について生理機能検査を通して学び、その特徴の理解を深めることを狙いとする。生理機能検査の対象となる疾患の病態、生理機能検査の臨床的意義、結果の解釈や使用機器の特性・原理など、各項目についての総合的な知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(③ 手嶋 泰之／5回) 生理機能検査とは、循環器系検査(循環器系検査の基礎、心電図検査、心音図検査、脈管疾患検査)、画像検査(超音波検査:超音波検査の基礎、心臓)。 (⑮ 小宮 幸作・⑲ 吉川 裕喜／2回)(共同) 呼吸器系検査(呼吸器系検査の基礎、呼吸機能検査) (11 文室 知之／7回) 神経・筋機能検査(神経系検査の基礎、脳波検査、筋電図検査)、画像検査(超音波検査、磁気共鳴画像検査、熱画像検査)。 (③ 手嶋 泰之・11 文室 知之・⑮ 小宮 幸作・⑲ 吉川 裕喜／1回)(共同) 総括。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 生命健康科学 コース専門分野	イムノメタボリズム学Ⅲ	医療の発展や国の政策等（ゲノム医療、チーム医療、在宅医療など）により、臨床検査技師や臨床工学技士を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、今後の臨床検査技師には検査データの動的解釈が求められる。本講義では、病態把握に重要な生化学・免疫学的検査の基礎と臨床応用を学び、実践につながる力を養う。 生化学・免疫学的検査の原理・方法に加えて、異常値、臨床的意義、生理的変動要因を学び、検査データの時系列変化や関連項目を含めた検査データの読み方を学修する。	共同
	イムノメタボリズム学Ⅳ	免疫の仕組みを理解したうえで、各領域の免疫関連疾患に関連するヒト免疫学について学修し、自己免疫疾患、免疫不全、アレルギー疾患など多様な免疫関連疾患の成因や仕組みを理解し、医療チームの一員として患者の病態を理解するために必要な基礎知識を身につける。  (オムニバス方式／全8回)  (88 尾崎 貴士／2回) 自己免疫疾患（膠原病） (15 小宮 幸作／2回) 呼吸器のアレルギー疾患 (81 渡邊 哲生／1回) 感覚器のアレルギー疾患 (46 波多野 豊／1回) 皮膚のアレルギー疾患 (9 井原 健二／1回) 小児の免疫関連疾患 (61 沖本 忠義／1回) 消化器の免疫関連疾患	オムニバス方式
	臨床病理学Ⅱ	病理学は、病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする。臨床病理学Ⅰで扱う病理学各論においては、諸器官および、それらを構成する諸臓器の解剖学、生理学を理解したうえで、病理学総論の学修内容を踏まえ、それら諸臓器、諸臓器に発生する個々の疾患について、その病因または原因、発生病理または発症のメカニズム、病態、病理形態を学修し、それが診断や治療の基礎になっていることを学修する。さらに症例検討の中で病理学総論・病理学各論で学んだ知識を応用して病態生理を組み立て、疾患をその基盤となる組織・細胞・分子レベルで説明できるようにする。  (オムニバス方式／全15回)  (13 内田 智久／8回) 病理学各論（血管、心臓、呼吸器、小児病理、脳・神経）、症例から病態を学ぶ。 (38 駄阿 勉／4回) 病理学各論（造血およびリンパ組織、腎・泌尿器、男性生殖器、筋・骨格）。 (74 西田 陽登／3回) 病理学各論（女性生殖器・乳腺、内分泌、皮膚）。	オムニバス方式
	臨床検査学	一般検査の業務とされる尿、髄液、糞便検体に含まれる各種成分を物理的、化学的方法で検出することにより、患者診療・治療に有用な検査情報を得る実践的手法を修得し、検体情報を扱う医療倫理を涵養する。尿沈渣検査法や脳脊髄液（髄液）の細胞数算定・細胞分類法について学ぶ。尿沈渣成分、髄液の細胞成分や寄生虫について標本や写真を観察し、それぞれの形態学的特徴を視覚的に理解する。また、静脈血採血法や検体採取方法（鼻咽頭ぬぐい液等）による基本的な手技の修得も行う。	
	微生物検査学	各種病原細菌の特徴、生化学的性状、病原性等の微生物学的基礎をサイエンスの観点から充実させ、各臓器別の感染症とその検体検査法の実際を臨床現場の観点から解説する。また、臨床現場で重要となる無菌操作等の微生物学的な基本操作や院内感染による種々の薬剤耐性菌の検査方法についても学ぶ。 世界を席卷する新型コロナウイルスのような新興感染症や再興感染症に対する遺伝子検査技術が、急速に発展している。研究分野のみに留まらず臨床現場においても重要な検査法として確立しつつある遺伝子検査技術を学修する。	講義30時間 実験16時間
腫瘍血液内科学Ⅰ	血液疾患と固形腫瘍に関し、主に診断に関わる検査について学修する。血液疾患については末梢血像と骨髓像の形態学的診断、遺伝子診断（染色体検査、FISH法、PCR検査）とその解釈について概説する。固形癌においては発症に関する遺伝子異常と遺伝子パネル検査によるその解析について学び、治療薬選択における遺伝子検査の役割について理解を深める。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 生命健康科学コース専門分野	腫瘍血液内科学Ⅱ	血液疾患と固形癌に関し、主に診断に関わる検査について演習を行い、血液疾患については末梢血と骨髓標本の作成の基本手技を取得し、塗抹標本の検鏡を行い、各種白血球細胞の形態学的診断能力を身につける。がん遺伝子に関するPCR検査を実施し、基本手技と判定能力を取得する。固形腫瘍に関してがん遺伝子パネルの結果を教材としてその臨床応用について解説する。	
	生命ホメオスタシス解析学Ⅰ	心電図、脈波、呼吸機能、特殊感覚（味覚、聴覚、嗅覚）、眼底、心臓および腹部超音波検査の実習を行い、心電図、脈波、呼吸機能の各検査で描出される波形について最低限の判読能力を身につける。心臓および腹部超音波検査では解剖知識に基づいた病態への理解を進め、学生同士で相互に被験者となって測定し、検査結果について考察する。機器の操作、被験者への検査説明など生理検査の円滑な進行に必要な技術・関連知識を修得する。	
	生命ホメオスタシス解析学Ⅱ	脳波、誘発電位、睡眠ポリグラフ、神経伝導、血管および末梢神経超音波検査の実習を行い、脳波、誘発電位、睡眠ポリグラフ、神経伝導の各検査で描出される波形について最低限の判読能力を身につける。血管および末梢神経超音波検査では解剖知識に基づいた病態への理解を深める。実習では学生が互いに被験者となり、機器の操作、被験者への検査説明など生理検査の円滑な進行に必要な技術・関連知識を修得する。	
	病理・細胞診断学Ⅰ	生体の一部、または生体から採取した細胞の顕微鏡標本を作製するにあたり、その肉眼的所見、診断の裏付けに必要な技術・手技（固定・包埋・染色等）を学修する。実際に標本を染色（HE染色、パパニコロウ染色）し、光学顕微鏡によって詳細に観察し、人体内部を構成する組織や細胞の形態的特徴および染色法の意義を学修するとともに、疾病の成因と病態について理解する。  （オムニバス方式／全15回）  （13 内田 智久／5回） 組織検査の意義と検査法、組織検査法（病理解剖、臓器の肉眼的観察、臓器・組織別取扱法、組織標本の作成・染色、組織標本の観察）。 （16 八尋 隆明／10回） 細胞診検査の意義と検査法、組織検査法（組織標本の評価法）、組織染色法、細胞診検査法（材料別検査法、標本の作成・染色、標本の観察、標本の評価法）、細胞診染色法。	オムニバス方式
	病理・細胞診断学Ⅱ	病理・細胞診断学Ⅱは、病理・細胞診断学Ⅰの講義を受講し、病理・細胞診断学的な基礎知識及び技術を学修して、実際に生体の一部、または生体から採取した細胞の顕微鏡標本を作製、必要な技術・手技（固定・包埋・染色等）、標本を染色（HE染色、パパニコロウ染色）、光学顕微鏡によって詳細に観察し、人体内部を構成する組織や細胞の形態的特徴および染色法の演習を行い、疾病の成因と病態についてさらに深く理解する。	
	臨床検査総合管理学	医療における検査部門の役割や管理運営方法について学修することは、臨床検査システムの理解を深めるために重要である。本講義では、検査部門の役割と使命、臨床検査の意義、組織構成、運営方法、精度保証、医療倫理、医療安全、検査データの活用について学び、臨床検査業務を円滑に遂行するためのマネジメントを理解するとともに、検査技術の進歩や医療環境の変化にも適応できる知識を修得する。	
	輸血・移植検査学	輸血検査と移植に関連する検査について実習を行う。ABO血液型、Rh血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験を実際に行い、その手技を修得し、正しく判定できる能力を身につける。ABO不適合造血幹細胞移植における血液型の変化を解説し、適切な製剤を選べる能力を修得する。同種造血幹細胞移植におけるHLA検査の意義とドナー選択のアルゴリズムについて学修する。	
	イムノメタボリズム解析学	主に血液検体を対象に生化学・免疫学的な臨床検査の手法を修得する。静脈採血は学生自ら採血者あるいは被験者となり、採血手技と採血を受ける患者への対応を学ぶ。生化学検査として糖の定量測定とタンパク質の分離・精製、活性測定、定量に関する技能を学ぶ。免疫検査では沈降反応、凝集反応、溶解反応などの主たる検査手法を修得する。	
	メディカルキャリアデザイン	本講義では、医療分野に関する専門家を招き、キャリア選択の経験、各分野の現状や将来展望についての理解を深め、臨床検査技師の国家試験の合格に向けた対策として模擬試験を繰り返し、臨床検査に関わる知識を定着させる。	共同
	臨地実習	実際の臨床の現場にて臨床検査の実践技術を修得する。臨床検査の役割と責任、医療現場で遭遇する臨床倫理問題について理解を深めるとともに、医療を担う一員としてチーム医療に取り組む姿勢を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 臨床医工学 コース専門分野	プログラミング	情報技術とプログラミングの基礎を学び、基本的なプログラムを組める能力を養成する。また、コンピュータによる実習を通して情報機器の操作を行い、これらの理解を深める。現在使用されている代表的なプログラミング言語を例に演習を行い、情報処理の基礎的技術を養う。	
	リハビリテーション概論	「リハビリテーション」の概念、関係職種、対象者、内容等について解説する。これらを踏まえたうえで、各職種の専門性と他の職種との連携、現在の課題等について、講義、ならびに討議を行う。	
	電気回路1	電気工学の分野を理解するための基礎知識として、電気回路の直流・交流回路網の電源と素子の記述、直列接続、並列接続のインピーダンスなどの基礎項目と、テブナンの定理、ノートンの定理で代表される諸定理、および有効、無効電力、力率の概念を理解することを目標とする。また、交流回路の基礎となる複素数の計算とフェーザ表示について修得する。	
	電気回路2	交流は長距離伝送に向いており、産業応用に重要な性質を持っている。本講義では、交流回路の基本を学び、電動機や変圧器の基礎理論と三相交流回路に関する諸理論を学ぶ。電動機やインバータなど交流回路の特性や応用についても触れる。	
	生体情報工学	ヒトがどのように周囲の世界を認識し知覚し行動しているかをその情報処理機構から学ぶことにより、生物のシステムの巧みさとその仕組みを新しい技術に役立てる考え方を身につける。	
	電磁気学	本講義では、電気電子工学の根幹をなす知識体の1つとなる電磁気学の法則について学ぶ。電磁気学で利用するベクトルの四則演算、電磁気学の静電界についての重要な概念、電気的現象を支配する法則、現象などの定性的理解が得られるように留意して解説するとともにその重要性を示すための工学分野への応用を紹介する。更に、各回の演習により理解を促す。	
	機械工学概論	この科目のねらいは、機械工学の中心となる材料力学・流体工学・熱工学・機械力学の入門的な内容に触れつつ、単位や計算の取り扱いや微分や積分で記述された式の解釈が可能になることで、受講者が自然科学の幅広い分野における知識の修得や機械システムに関する専門分野における知識および技術の修得し、また収集した情報を整理して活用する能力を培うことである。低温度差スターリングエンジンを例に、「回転軸の出力」「熱交換器の加熱」「流路での損失」「構成部品の剛性」「クランク機構の連接棒にピストンピンの加速度と連接棒の回転による慣性力および向心力が作用する」について説明を行う。	
	化学Ⅲ	生物を対象とした分析化学について学修する。その理解のために必要な生物物理化学的知識を養うために、生物物理化学領域の講義を前半に行う。後半部分では、実践的な分析化学について解説する。	
	フーリエ解析	理工学分野の諸現象を解析する場合、そのモデルとして現象を微分方程式で記述することが多くある。本講義では、初等微積分学の基礎知識を積分変換としてのラプラス変換、フーリエ変換について解説し、応用数学の視点からここで得た知識を基本的な諸現象に関する常微分方程式・偏微分方程式に適用し、これらを解くことで微分方程式の物理的な概念を把握できるように導く。また、積分変換に関連して直交関数、デルタ関数についても解説し、数式と現象の相互関係をより深く理解できることを目的とする。	
	電子回路	主にバイポーラ型トランジスタの動作原理・特性・小信号等価回路について説明したのち、これを用いたバイパス回路や基本増幅回路の解析・設計方法について学ぶ。 引き続きアナログ回路について、特に負帰還増幅とOPアンプについて説明する。次に、コンピュータなどに用いられ、現在欠くことのできない技術であるデジタル回路について、その基本的考え方と動作について学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 臨床医工学 コース 専門分野	医療材料学	<p>医療機器・医療用具などに使用される材料をバイオマテリアルと呼ぶ。医療機器研究開発にはこれら多くの医療材料の特性を正確に把握することはきわめて重要である。ここでは医療材料の特徴、使用目的、生体適合性などについて学修し、臨床および医療機器研究開発現場において医療材料に関する指導的立場となるよう理解を深める。また、医工学者として必要な生体物性工学について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 穴井 博文／6回) 医療材料の位置づけ、医療材料の適応部位、生体適合性の評価法、人工臓器の生体適合性、医療材料の安全性評価と安全対策、補助循環と医療材料</p> <p>(② 兒玉 雅明／1回) 生体と医療材料の相互作用</p> <p>(③ 藤井 弘也／2回) 生体の電気的特性</p> <p>(④ 藤井 弘也／3回) 金属材料と高分子材料、生体の機械的特性、生体の熱特性</p> <p>(⑤ 浅山 良樹／1回) 生体と放射線</p> <p>(⑥ 河島 毅之／1回) 再生医療からの医療材料</p> <p>(⑦ 加来 信広／1回) 人工臓器の生体適合性</p>	オムニバス方式
	計測工学	<p>工学の分野において、正確なデータを収集し、そのデータの特徴を抽出する技術は欠くことはできないものである。新しい技術や理論も正確な計測があって、初めてその形が見えてくる。本講義では、工学分野における計測の基礎として、単位、誤差の扱い方、測定量の関係を導き出す方法を学ぶ。そして、電圧・電流の測定と問題点、センサとコンピュータを利用した計測システムの基礎について学ぶ。</p>	
	電気電子工学実験	<p>本実験では、学生自ら実験を行い、グループでの討論及びレポート作成を通じて、電気電子回路の基本事項と実験データに基づいたレポート作成技術を身につける。</p> <p>具体的には、電気回路、電子回路、主にアナログ回路の基礎実験を学生自ら行い、討論により理解を深め、レポートの作成を行う。オームの法則、抵抗・キャパシタ・インダクタの周波数特性、トランジスタ・ダイオードの特性測定、OPアンプ各種回路などの実験をグループに分かれて行う。</p>	
	人工臓器学(代謝系)	<p>人工臓器学における代謝系とは、人工腎臓、人工肝臓、アフエレーシス療法、人工すい臓等を含む研究・学問領域である。本講義では、血液透析療法を中心とした腎代替療法について医学的側面、工学的側面より学修する。血液透析療法、血液透析ろ過療法、腹膜透析療法、急性期疾患症例に対する持続的腎代替療法（CRRT）、アフエレーシス療法についても学ぶ。また、治療に用いる器具を用いた講義を行うとともに、これらの人工臓器治療を受ける患者の病態についても修得する。</p> <p>これらに加えて、比較的新しい、そのほかの代謝系人工臓器（人工すい臓等）についての講義も行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 友 雅司／9回) 代謝系人工臓器とは、腎代替療法、透析膜の特徴、透析液の特徴、尿毒素と除去標的溶質、長期維持透析患者の合併症、本邦と世界の慢性腎代替療法の実況と課題、その他の代謝系腎臓臓器（人工すい臓等）</p> <p>(② 丹下 佳洋／4回) 血液透析の物理的現象、プールモデル、透析液生成工程、アフエレーシス療法</p> <p>(③ 梅田 涼平／2回) 血液透析（血液透析濾過、血液ろ過を含む）の手技の実際、血液透析（血液透析濾過、血液ろ過を含む）中のトラブル</p>	オムニバス方式
	人工臓器学(呼吸器系)	<p>生体機能代行装置の一つである人工呼吸器は医療機関において多く使用されており、それを適切に操作・管理することが重要である。本講義では、患者の全身管理を考えた呼吸療法に関する知識を理解するため、呼吸生理、呼吸不全の病態、血液ガス分析、装置の基本原理解、保守管理など、呼吸療法の基礎的・基本的知識を説明でき、全身管理を考えた人工呼吸療法の知識を修得する。</p>	
人工臓器学(循環器系)	<p>循環器疾患においては、心臓機能の代替療法としての補助人工心臓やペースメーカー、心臓・大血管手術時の循環補助を行う人工心臓、心臓カテーテル治療や大動脈ステントグラフトなど、疾患の病態、病因に応じた様々な人工臓器が治療やQOL向上のために用いられている。本講義では人工心臓装置、循環補助装置、血管内治療法、ペースメーカーなどの仕組みと機能を学び、それらを実践できるだけの知識を修得する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 臨床工学コース 専門分野	人工臓器学(代謝系)実習	人工臓器学代謝系実習では、腎疾患・肝疾患などに用いられる代謝系治療機器の原理・構造・操作および特性について医工学の視点から実習を行う。膜分離技術に代表される代謝系人工臓器の理論を理解するとともに、水系血液透析実験・アフレスミス実験により臨床医工学に関する技術と理論を修得する。これにより代謝系人工臓器の現状と問題点を把握し、将来の臨床業務・医療機器研究開発イノベーションに繋げることを目的とする。	
	人工臓器学(呼吸器系)実習	人工呼吸器の操作および保守管理ができるようになるために、実機およびモデル肺を用いて、人工呼吸器の構成や基本原理を学び、グラフィック波形による換気様式やモードの確認、アラーム対応などを学修する。人工呼吸療法に必要な付属装置や患者管理に必要なデバイスに触れて理解を深める実習を行い、実習を通じて患者管理および安全対策に関する基礎的・基本的知識と技能を修得する。	
	人工臓器学(循環器系)実習	循環器疾患においては、心臓機能の代替療法としての補助人工心臓やペースメーカー、心臓・大血管手術時の循環補助を行う人工心臓、心臓カテーテル治療や大動脈ステントグラフトなど、疾患の病態、病因に応じた様々な人工臓器が治療やQOL向上のために用いられている。本実習で人工心臓装置、循環補助装置の操作、および血管内治療法、ペースメーカー移植などで臨床工学士が行う手技を修得する。	
	医用機器安全管理学	臨床工学技士は、医療機関において医療機器安全管理の中心的な役割を担い、医療機器安全管理責任者としての責務がある。本講義では、医用電気機器、病院電気設備、医療ガス、電磁環境、機器の生体への接続に関する安全基準や人体への影響を学び、患者・医療機器・設備・使用環境・医療従事者を多面的にとらえ、安全対策や安全管理技術の基礎的・基本的知識を理解し、高い倫理観をもって医療現場での医療安全の役割を担うことができる知識を講義・演習を通して修得する。	
	ロボット工学	ロボットシステムを制御するためには、多自由度機構の運動学を理解する必要がある。本講義では、多自由度マニピュレータの運動学、静・動力学を中心として、その数学的記述方法と制御方法について触れる。またロボットの構成要素として使用される、各種のセンサ、アクチュエータの原理と特徴にも触れ、実際のロボットがどのように構成され、制御されているのかを解説する。	
	応用数学B	オペレーションズ・リサーチは、数理的な裏づけをもとに最適な意思決定を支援するための学問分野である。本講義ではオペレーションズ・リサーチで扱う代表的な問題である線形計画問題を中心に、ゲーム理論、待ち行列問題、在庫管理問題、階層化意思決定法、組合せ最適化を取りあげ、具体的な現実の問題から解決のための本質のみを取り出すモデル化、解決のための手法とそれを裏付ける数理的理論について学ぶ。	
	メディカルキャリアデザイン	本講義では、臨床工学技士として第一線で活躍する臨床工学技士を招き、キャリア選択の経験、各分野の現状や将来展望や臨床工学技士の業務範囲及び学術範囲について理解を深め、臨床工学技師の国家試験の合格に向けた対策として模擬試験を繰り返し、臨床工学に関わる知識を定着させる。	共同
	臨地実習	本実習では、病院内における血液浄化療法関連実習、呼吸療法関連実習、循環器関連実習（体外循環業務・カテーテル関連業務）、治療機器関連実習（静脈路確保関連行為を含む）及び医療機器管理業務実習を主体とした臨床における医療機器の点検や医療現場で遭遇する臨床倫理問題について理解しながら指導者の下に実施する。また、生命維持管理装置の適応疾患と病態を関連づけ、科学的思考に基づいた論理的思考法を実践することで、医学・医療の基盤を支え、多職種によるチーム医療に貢献できる能力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	研究科目	研究室配属Ⅰ	研究活動に従事している医師・研究者から早期に研究指導を受けることにより、研究の重要性・醍醐味を知り、研究的探究心（リサーチマインド）を育むことを目的とする。また、将来の科学研究を担う融合人材、且つ研究チームの一員として協調的な学修環境の中で問題解決能力を高め、幅広い研究領域に対する学修意欲の向上につなげる。研究室配属Ⅰは、研究活動における基礎的な内容（研究倫理、基本的な実験技術、論文検索・講読方法等）について学修し、研究室配属Ⅱへの基盤科目とする。	
		研究室配属Ⅱ	研究活動に従事している医師・研究者から早期に研究指導を受けることにより、研究の重要性・醍醐味を知り、研究倫理、研究的探究心（リサーチマインド）を育むことを目的とする。また、将来の科学研究を担う融合人材、且つ研究チームの一員として協調的な学修環境の中で問題解決能力を高め、幅広い研究領域に対する学修意欲の向上につなげる。研究室配属Ⅱは、研究室配属Ⅰを基盤に、各研究室の指導教員の指導のもとで各自テーマを設定し、問題解決能力を養い、卒業研究へと繋げていく。	
		卒業研究	各研究室の指導教員の指導のもとで各自テーマを設定し、誠実な姿勢で研究に取り組む研究倫理を涵養し研究を実践する。研究室配属は、2年後期から各研究室に配属を行う。日々の研究を通して、様々な研究に必要な基礎的技能や問題解決能力を修得する。また、研究成果を発表会で口頭発表し、最後に卒業論文にまとめて提出する。	